

教護少年調査録

式場隆三郎編

298-45



1200501366639

298
45



始



298
45

静岡縣少年鑑別醫
醫學博士式場隆三郎述

教護少年調查錄

静岡縣社會課

目次

一 一 教護少年とは何か
 二 二 教護少年の分類
 三 三 遺傳的觀察
 四 三 父母の異常
 四 四 近親の異常
 五 四 父母の犯罪
 六 五 近親の犯罪
 六 六 扶出
 七 七 養者
 七 七 扶養者の態度
 八 七 扶養者の資産状態
 九 八 扶養者の職業
 一〇 九 入園生の郡市別
 一〇 〇 出生の次序
 一一 〇 同胞数
 一二 一 出生の月
 一三 一 出生時の父母の年齢
 一四 二 出生時の父の年齢

著者寄贈本

一五 一 出生時の母の年齢
 一六 一 入園前の環境及生活
 一六 二 不良化の原因
 一六 三 不良行為の初發
 一七 一 入園事由
 一八 一 住居と不良行為
 一九 一 入園時の年齢
 一九 二 退園時の年齢
 二〇 一 退園後の職業
 二〇 二 中途事故者及退園後行狀不良者
 二一 一 在園期間
 二二 一 入園時の修學程度
 二二 二 習癖及性格
 二二 三 趣味嗜好
 二二 四 現在入園生調査
 二二 五 一般智能検査
 二二 六 向性検査
 二二 七 血液型検査
 二二 八 意志氣質検査



慾望調査

- 好きな花、食物、遊戯、仕事、學科、人物……………四
- 嫌いな花、食物、遊戯、仕事、學科、人物……………四
- 家族中の最愛者……………四
- 歸郷慾の有無……………四
- 將來の希望職業……………四
- 自己の長所……………四
- 自己の短所……………四
- 怖いもの……………四
- 欲しいもの……………四
- 映畫への興味……………四
- 身心の違和……………四
- 親友の數……………四
- 信 仰……………四
- 夢……………四
- 女性への關心……………四
- 今の生活について……………四
- 既往所持最高金額……………四
- 農事への好惡……………四
- 食事の十分不十分……………四
- 飲酒の經驗……………四
- 喫煙の經驗……………四

學園への希望及現在の心境

- 七夕祭に際して……………五
- 七夕祭の意義……………五
- 幾歲から知つたか……………五
- 去年の七夕祭の記憶……………五
- 七夕祭の繪畫的描寫……………五
- 盆祭に際して……………五
- 盆の意義……………五
- 昨年の盆の記憶……………五
- 佛教について……………五
- 過去の最悪事……………五
- 過去の最善事……………五
- 佛前への供物……………五
- 個性調査……………五
- 家系及家庭狀況……………五
- 生 年……………五
- 入園前の住所……………五
- 本 籍 地……………五
- 入園時同道者……………五
- 養 育 者……………五
- 養育者の態度……………五
- 養育者の教育程度……………五

養育者の職業

- 養育者の職業……………五
- 兒童出生時に於ける父母の年齢……………五
- 同 胞……………五
- 家系の遺傳的狀況……………五
- 資 産 狀 況……………五
- 家庭の交情……………五
- 家人の手柄……………五
- 家人の轉職移住……………五
- 交通及遊び場所……………五
- 學 校 狀 況……………五
- 入 學 年 齡……………五
- 轉 學……………五
- 小學校に於ける總成績……………五
- 各科の成績及好惡……………五
- 學校の好惡……………五
- 教師の好惡……………五
- 身體狀況……………五
- 血液検査……………五
- 血 色……………五
- 病 氣……………五
- 食 事……………五
- 眠……………五

精神狀況

- 疲 勞……………五
- 風 邪 頭 痛……………五
- 腹痛その他……………五
- 言 語……………五
- 動 作……………五
- 表 情……………五
- 感 覺……………五
- 愛 情……………五
- 自 我……………五
- 性 格……………五
- 根 氣……………五
- 注 意……………五
- 讀 書……………五
- 性 慾……………五
- 夢 望……………五
- 希 望……………五
- 癖……………五
- 社會的關心……………五
- 道德的關心……………五
- 宗教的感情……………五
- 種々な場合に於ける態度……………五

298-45

叱られた場合	六
欲する事を禁じられた場合	六
あやまちを犯した場合	六
恐怖した場合	六
病氣になつた場合	六
見慣れぬ所へ連れてゆかれた場合	六
友達が悪いことをすゝめる場合	六
友達から虐められた場合	六
褒められた場合	六
好む物を與へられた場合	六
物を欲しがらる場合	六
悲しい場合	七〇
交友關係	七〇
學習の場合	七〇
遊戯の場合	七〇
食事の場合	七〇
寝に就く場合	七〇
朝起きる場合	七〇
命令を與へられた場合	七〇
仕事をする時の場合	七〇
嗜好	七三
趣味	七三
嗜好	七三

好きなもの	七三
欲しいもの	七三
なりたいたいもの	七三
結語	七三

教護少年とは何か

教護少年とは所謂不良少年のことであつて、保護少年とも稱はれてゐる。不良行爲を反覆するを常とするこれらの少年に、かゝる名稱の與へられたのは、犯罪や不良行爲に關する理解の進歩を語るものである。

十九世紀にロンブローゾや實證學派は犯罪者について次の様な主張をなした。

犯罪者は生來性に一つの型を持つてゐる。それは變質や身體的特徴によつて示される、例へば頭形の異常、扁平な鼻、狭い額、長い顎、粗疎な鬚、痛覺鈍麻等がある。これらの中五種以上を持つ者は犯罪型であつて、野蠻な原始人への退行、遺傳、或は臍痛性を示すもので、特に優れた境遇に生活しないと犯罪者になつて終ふ。

この説は一時各國に迎へられたが、その後多くの研究者によつて彼等の云ふやうな身體的犯罪型は存在しないと結論されるに至つた。パルメレは「少年犯罪は多く成年犯罪の原型である」と主張してゐる。この意味で不良少年を生來性犯罪者、遺傳的犯罪者の如く考へてゐる人々がある。然しかゝる社會的環境や家庭的境遇を無視した不良少年觀は舊時代のもので、近代では少年の犯罪を彼等自身の先天的素質にのみ歸せしめず、それは寧ろ社會が責任を負ふべきものとして、これらの少年を保護し、教護せんとしてゐる。かくて不良少年といふ名稱が捨てられて、保護少年、教護少年といふ新しい名が作られた譯である。

然らば教護少年には先天性の特質は認められず、境遇の不良のみであるか。いや、ロンブローゾ派の云ふやうな生來性犯罪型や不良型は認められないが、生來性の性格異常者の多いことは否定出来ない。身體的異常よりも精神的缺陷のある者の方が多い。小川恂藏氏は浪速少年院に收容された四百八十二名の不良少年について、次の様な分類を發表してゐる。

- 精神的著變を認めない者 (變質傾向者) 九九名 二〇・五%
- 主として智能缺陷の著明な者 (精神薄弱者) 一五〇名 五一・八%
- 主として性格缺陷の著明な者 (性格異常者) 一三一名 二六・九%
- 精神異常者 二名 〇・四%

この結果は決して浪速少年院だけの特徴ではない。どこの調査も大體この傾向を示してゐる。教護少年の發生についてはその原因は單純でない、だが生來性の精神素質の不良は被ふことの出來ぬ事實である。その上に境遇の不良が重大な影響を持つてゐる。彼等の大部分は温い父母の愛や家庭愛を知らない、それに加へて經濟的の不遇にある。かくて素質と環境が彼等を犯罪的傾向に赴かしめる。

教護少年の分類

教護少年と稱ばれる者の中には、臨床醫學的にみて左の如きものが含まれてゐる。

- 精神病者
- 精神薄弱者
- 精神變質者
- 神經病者
- 精神健康者

これらの少年を鑑別する場合に、最もいゝ根據を與へるものは智能である。今日智能検査の科學的價値を疑ふ人は少いから、先づそれによつて精神的特質の根元を分類し得る。精神薄弱とは所謂低能のことであつて、智力の發達の不十分の者である、精神發育制止症とも云ふ。これには程度があつて、次の三種に分けられてゐる。

- 白痴
- 癡愚
- 魯鈍

白痴は最も高度の精神薄弱で、多く胎生中又は生後一年位の間になるもので、癡愚はそれより軽く、精神作用の發達が不十分で、その統一が出來ないものである。魯鈍は輕度の精神薄弱で、智力と論理的判斷の力が鈍い。教護少年の中には

多數の精神薄弱兒が存在してゐる。

精神低格とは智力は普通、或は普通以上に優秀でありながら、感情、意志の異常が著明なもので、神經質、ヒステリー性格、癲癇性格、變質性格等が含まれてゐる。教護少年の多くは精神薄弱兒と精神低格兒であつて、その他の者は極く少數である。

三方原學園記録調査

私は静岡縣少年教護院―縣立三方原學園に保管されてゐる記録によつて、左の如き結果を得た。記録は明治四十三年より昭和十一年に及ぶもので、少年の數は百七十名である。然し遺憾なことに組織的な記録でないので、私の求める調査事項が悉く記入されてゐるものは僅少であつた。だから次の結果は結論を下すには餘りに貧しい根據である。今後はこれらの點につき十分な調査記録を作製して置く必要があると思ふ。

遺傳的觀察

教護少年の精神的變質傾向に最も重大な關係のある遺傳について、父母に關するもの、近親に關するものを二大別して調査した結果は次の如くであつた。

父母の異常		父の異常	
酒亂	一	酒亂	一
吃音	一	吃音	一
肺核	一	肺核	一
遊蕩	二	遊蕩	二
怠惰	三	怠惰	三
結核	四	結核	四
精神病	四	精神病	四
白痴	二	白痴	二
癡愚	二	癡愚	二
魯鈍	二	魯鈍	二
精神健康者	一	精神健康者	一
神經病者	一	神經病者	一
精神變質者	一	精神變質者	一
精神薄弱者	一	精神薄弱者	一
精神病者	一	精神病者	一

トを出すことは不可能であるが、これを一覽した人々は、彼等の素質が如何に不良な遺傳を持ち境遇も悪かつたかを知ることが出来る。

窃盜罪不起訴	窃盜嫌疑	窃盜一犯	窃盜三犯	賭博三犯	窃盜賭博三犯	横領	文書偽造	賭博罰金刑	故買罪	脅迫	毀損罪受刑三ヶ月	前科數犯	母の犯罪	窃盜嫌疑	窃盜嫌疑	傷害罪	故買三犯
二	二	一	三	二	二	一	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一

祖父母	殺人罪	窃盜八犯	賭博八犯	窃盜父	詐欺	傷害罪受刑四ヶ月	傷害罪	窃盜受刑四ヶ月	弟	窃盜罪不起訴	從兄	賭博常習	姉	浮浪罪
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

近親の犯罪

意行不弱	素行不良	盜癖	行衛不明	母の異常	低能	ヒステリ	盲目	放逸	大盜	祖	父	大酒家	行衛不明	兄	不良兒	精神病	精神蕩	遊衛不明	姉	
二	七	一	一	七	一	一	一	五	四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

近親の異常

父の犯罪	窃盜受刑四ヶ月	窃盜受刑五ヶ月	窃盜受刑一ヶ年	窃盜三犯	伯	盜	不	良	兄	白痴	父	良	弟	不	伯	盜	精	祖	精神病	會	精神病	祖	大酒家	精神病	祖	精神病	從	兄	父				
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

父母の犯罪

出生

記録による出生別は次の如くである。

公	生	一二六
内縁関係による出生	生	一三
私	生	二〇
孤	兒	一一

私生兒が三十三名で十九・四％に達することに注目せねばならない。私が曾て新潟學園の百四十三名を調査した時は二十一％であつた。

扶養者

教護少年を扶養した者の分類は次の如くである。

父	六六	養父	七
母	一三	祖父	四
父及繼母	一〇	繼母	五
母及繼父	五	義兄	二
叔父	八	母及祖父	一
伯父	五	母及義兄	一
祖母	六	伯母	一
兄	六	叔母	一

母及叔父
他 人

七一

扶養者無し

一四

扶養者の種類の多數に分れてゐることに注意せねばならない。殊に扶養者の全くない少年が十四名もあつた。

扶養者の態度

これらの不遇な家庭に育つた少年達は、如何なる取扱をうけて養育されたかを分類してみよう。

放任	七五	溺愛	八
普通	三二	惡事勸誘	二
苛酷	二三	捨てられた者	一四
嚴格	九		

放任された者が最も多數で、普通と稱すべきものは僅少である。捨てられたもの、惡事を勸誘されたものさへある。

扶養者の資産状態

扶養者の資産状態は記録によると、次の如き分類にある。

赤貧	三三	普通	一九
無産	六二	中産	七
下産	二七		

貧困者が一二二名の多數で、中産者は僅に七名である。環境不良の原因の中で、これが最も大きなものと云つてよい。

扶養者の職業

これら扶養者の職業別を調査すると、次の如くなる。

農 業 二九
日 僧 二七
鍛 冶 五
車 夫 四
土 工 三
木 挽 三
大 工 四
飲 食 四
製 材 二
魚 木 二
石 木 二
植 木 二
荷 車 二
材 車 二
書 木 二
細 工 二
炭 焼 師 二

二 二 二 二 二 二 二 二 二 四 四 三 三 四 五 二七 二九

保 險 勸 誘 員 一
木 戸 番 一
紙 屑 一
軍 人 一
巡 査 一
太 商 一
製 紙 業 一
漆 師 一
八 百 一
驛 長 一
菓 子 商 一
行 業 一
車 輛 檢 査 一
桶 屋 一
周 旋 一
職 業 一
看 護 婦 一
足 職 一

二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

專 賣 局 員 一
漆 器 運 搬 業 一
鐵 道 機 關 士 一
女 工 一
築 港 雇 員 一
牛 乳 屋 一
漆 器 製 造 業 一
米 屋 一
お で ん 屋 一
商 店 一
製 罐 業 一
靴 屋 一
銀 行 員 一
養 蜂 牛 乳 豆 腐 業 一
測 量 技 師 一
古 物 商 一
船 人 足 一

以上をみると、日雇とか労働者などが多く、知的職業にあるものが少数である。

佛 煎 餅 屋 一
醬 油 工 場 人 夫 一
塵 焼 人 夫 一
映 畫 說 明 者 一
料 理 屋 一
提 燈 屋 一
自 轉 車 屋 一
輻 輳 業 一
活 動 館 經 營 一
按 摩 業 一
坑 夫 一
壽 司 屋 一
新 聞 配 達 一
無 職 一
乞 食 一

二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

入園児市別

三保學院及三方原學園に收容された當時の、少年達の静岡縣下に於ける住居は次の如くである。

出生時の父母の年齢

生れた月は次の如くなる。これはあまり意味がない。一月と三月生の多いのは世間一般の事実と同じである。

六	五	四	三	二	一
月	月	月	月	月	月
生	生	生	生	生	生
四	八	一〇	一一	一五	二〇
十	十	十	九	八	七
二	一	月	月	月	月
月	月	生	生	生	生
一	二	九	一三	一七	二一
二	九	一三	一七	二一	二五

出生月

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
父	父	父	父	父	父	父	父	父	父	父	父
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
母	母	母	母	母	母	母	母	母	母	母	母
(九)	(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(三)	(二)	(二)	(一)	(一)
一	六	五	六	二	九	九	二	二	二	五	三
異	異	異	異	同	同	同	同	同	同	同	同
父	父	父	父	父	父	父	父	父	父	父	父
同	同	同	同	異	異	異	異	異	異	異	異
母	母	母	母	母	母	母	母	母	母	母	母
(四)	(三)	(三)	(三)	(五)	(四)	(三)	(三)	(二)	(二)	(一)	(一)
一	二	三	八	一	一	一	五	五	五	五	五

同胞数は全くない一人子と一人しかなかつた者が最も多い。これは幼児の非社會性を増長せしめる因となる。

同胞數

長	次	三	四
子	子	子	子
六三	三二	三〇	一四
五	六	七	十
子	子	子	子
五	六	七	十
一	四	四	五

出生の次序

教護少年の同胞間に於ける出生の順序は次の如くで、長子が最も多い。

都市が最も多く、濱松市が最高である。不良少年の巢が都會にあることに注意せねばならない。

磬	小	安	濱	富	沼	清	濱	靜
田	笠	倍	名	士	津	水	松	岡
郡	郡	郡	郡	郡	市	市	市	市
八	〇	〇	二	三	二	七	九	八
住	周	榛	田	引	賀	庵	志	駿
居	智	原	方	佐	茂	原	太	東
不	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
定	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
九	三	三	三	四	四	五	六	八

父
? ? ? ? ? ? ? ? ? ? 三五 三五 三八 三三 五三 四二 四一 四〇 三一 三八 三三

母
三三 三二 三三 三三 三五 二六 二八 二八 二八 二九 ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

父
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ? ? ? ? ? ? ? ?

母
四九 三四 三二 三〇 三六 三一 二七 二九 二三 二一 三八 三五 三五 三三 三〇 三〇 三二

(○は私生児で不明なものである。)

出生時の父の年齢

二十歳以下
二十一歳—二十五歳 二
二十六歳—三十歳 二二
三十一歳—三十五歳 二六
三十六歳—四十歳 一四
四十一歳—四十五歳 九
四十六歳—五十歳 四
五十歳以上 四

右の結果をみるに、父に於ては二十代が三十四名、三十代が四十名で、母に於ては二十代が五十名、三十代が三十九名である。これらもあまり意味がないと思ふ。

出生時の母の年齢

二十歳以下
二十一歳—二十五歳 二七
二十六歳—三十歳 一三
三十一歳—三十五歳 二七
三十六歳—四十歳 一二
四十一歳—四十五歳 一
四十六歳—五十歳 一

入園前の環境及生活

記録に現れてゐる入園前の教護少年の生活、環境は次の如く分類される。佳良と書かれてゐる者は僅に一名で、普通とよばれる者が五十三名(三十二%)に過ぎない。

普通	五三	浮浪	三四
家庭不良	四七	生活變轉、家庭不良	三三
生活變轉	二〇	交友不良	三
浮浪乞食	一六	居所、交友不良	三
映畫に耽溺	一〇	佳良	一
居所不良	一		一五

不良化の原因

一六

何が少年達を不良にしたか？これは大きな問題であり、複雑なもので、簡単に判断出来ないが、入園時の記録によつておよそ次のやうな分類が成り立つ。

- 素質兒童 四五
- 環境兒童 一〇
- 素質環境兒童 一一五

因素質兒童とは、生來性に精神變質的の負因を以て生れたもの、つまり遺傳的素質の濃厚なものである。環境兒童とは素質は普通と認められるが、環境の不良なために教護少年となつたと判定されるものを指す。素質環境兒童とは素質も悪いが、それに環境の不良が加はつたものを指す。素質兒童と環境兒童はもとより明確には分類し得ない。更にそれらが單獨に不良化の原因になるかも疑問である。素質があつて、それに環境の不良が加はつたものが最も多い結果をみたのは當然の歸結と云つてよからう。これは私の調査の結果ばかりでなく、諸家の研究もおよそ一致してゐる。環境のみの不良でなつたと認められるものは僅に十名である。これらの結果は教護少年の發生防止に當つて注目せねばならぬと思ふ。

不良行爲の初發

不良行爲が幾歳位から認められたか。それは何であつたかを調査してみた。七歳、八歳、九歳で初發した少年が最も多い。そして窃盜が大部分である。四歳で既に窃盜行爲を認められた少年がある。これも注目に價する。

- 四歳 窃盜(二)
- 五歳 窃盜(六) 浮浪弄火(一)
- 六歳 窃盜(六) 浮浪(二)
- 七歳 窃盜(一三)

八歳	窃盜(一六)	浮浪(二)	暴行(二)	一六
九歳	窃盜(一八)	浮浪(二)	無錢觀劇(二)	二〇
十歳	窃盜(八)	浮浪(二)		一〇
十一歳	窃盜(一一)	浮浪(二)	暴行(二)	一一
十二歳	窃盜(八)	浮浪(二)		一〇
十三歳	窃盜(九)	暴行浪費(二)		一一
十四歳	窃盜(九)			一一
十五歳	窃盜(二)			一
十六歳	窃盜(二)			一

入園事由

教護少年が入園した時の主なる不良行爲を分類するに次表の如くである。窃盜と窃盜浮浪が最も多い。

窃盜	九一	窃盜傷害浮浪	一一
窃盜浮浪	四二	窃盜惡戲	一一
窃盜浮浪暴行	六	窃盜脅喝浮浪	一一
窃盜放火	五	浮浪惡戲	一一
窃盜暴行	四	窃盜浮浪鐵道惡戲	一一
窃盜脅喝	三	窃盜浮浪拘摸	一一
窃盜詐欺	二	窃盜浮浪無錢乘車	一一
無錢乘車浮浪窃盜	二	浮浪無錢乘車	一一
暴行浪費	一	窃盜拘摸浮浪	一一
窃盜傷害放火	一		一一

住居と不良行爲

入園前の少年達の住居が、都市に最も多いことは前述の如くであるが、それを種別に分けてみると次表の如くである。

市		村	
窃盗	(七八)	窃盗	(五八)
窃盗 浮浪	三七	窃盗 浮浪 弄火	一
窃盗 浮浪 傷害	二八	窃盗 惡戯	一
窃盗 詐欺	一	窃盗 浮浪	四二
窃盗 放火	一	窃盗 放火	六
窃盗 放火 傷害	一	窃盗 暴行 浮浪	二
窃盗 暴行 浮浪	三	浪費 暴行	一
浪費 暴行	一	窃盗 暴行	二
窃盗 暴行	一	窃盗 脅喝	一
窃盗 無錢乘車 放浪	一	浮浪 惡戯	三
窃盗 拘摸 浮浪	二	住所不定	(一一)
浮浪 無錢乘車	一	窃盗	(三三)
窃盗	(三三)	窃盗 浮浪	二
窃盗 浮浪	二	窃盗 無錢乘車 浮浪	六
窃盗 詐欺	三	窃盗 脅喝 浮浪	一
窃盗 放火	一	窃盗 鐵道 惡戯 浮浪	一
窃盗 暴行 浮浪	三		

入園時の年齢

入園當時の年齢は左表の如くで、十二歳が最も多く、十三歳、十四歳がこれに次いでゐる。不良行爲の初發からなるべく早く入園教護する程効果がああだから、もつと早期に發見し收容せねばならない。十五歳以後の入園は教化が困難と認めねばならない。

八歳	三	十三歳	二三
九歳	一〇	十四歳	二四
十歳	一四	十五歳	一七
十一歳	二一	十六歳	一〇
十二歳	三五	十七歳	四

退園時の年齢

入園時の年齢が遅れてゐるので、退園時の年齢も一般におかれてゐる。これは退園後の就職にも大いに不便を來すのであるべく年齢の若い中に退園させねばならない。少くとも高等小學校卒業位の年齢迄に教化して、社會へ送り還さなければ就職も困難であり、落伍者となつて再び犯罪行爲に陥る危険がある。

十歳	一	十七歳	一九
十一歳	二	十八歳	二三
十二歳	一一	十九歳	一八
十三歳	一一	二十歳	九
十四歳	一一	二十一歳	一四
十五歳	一一	二十二歳	一
十六歳	一五		

退園後の職業

退園後の就職は、記録に残つてゐるものは次の如くである。その後轉職したものであらうし、失職してゐるものもあらう。

疊牛南薦餡活洋運塗鍛自家大	乳洋 製 字 服 送 冶 轉	配移 造 業 工 師 屋 屋 事 工	屋達住 職 業 工 屋 業 師 屋 屋 事 工	學 校 再 入 學	海 職 工	下 職 工	農 業	一 三
製電ブ織製傘飲商造漁足空雜米菓豆パ建	材氣リキ 函 食 店 小 僧 業 業 屋 買 商 屋 屋 屋 具	工 商 屋 工 業 屋 店 僧 業 業 屋 買 商 屋 屋 屋 具	工 商 屋 工 業 屋 店 僧 業 業 屋 買 商 屋 屋 屋 具	工 商 屋 工 業 屋 店 僧 業 業 屋 買 商 屋 屋 屋 具	工 商 屋 工 業 屋 店 僧 業 業 屋 買 商 屋 屋 屋 具	工 商 屋 工 業 屋 店 僧 業 業 屋 買 商 屋 屋 屋 具	工 商 屋 工 業 屋 店 僧 業 業 屋 買 商 屋 屋 屋 具	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

中途事故者及退園後行狀不良者

入園中死亡、罹病退園、逃走退園、又は定年に達して退園した者、轉園した者、退園後不良行爲のあつた者をあげれば
 次表の如くである。

死	定	定	定	定	定	逃	逃	逃	逃	逃	眼	神	精	肺
亡	年	年	年	年	年	走	走	走	走	走	病	衰	院	炎
二名	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園
八年四月	五年七月	六年五月	七年二月	七年二月	七年七月	一年	一年	二年三月	二年三月	三年五月	三年五月	十年	四年七月	
武藏野學院入	武藏野學院入	武藏野學院入	武藏野學院入	武藏野學院入	武藏野學院入	少年刑務所入	六踏園入	養育院入	刑務所入	竊盗	竊盗	竊盗	詐欺	詐欺
在園	在園	在園	在園	在園	在園	一名	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園	在園
二年六月	六年十一月	二年十月	四年三月	一年八月	一年八月	六月	八月	五年四月	一年	六年二月	二年一月	五年五月	三年四月	

軍 衛 不 明 人
 一 五

七	七	七	七	七	七	七	八
年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日

(九)
一
一
一
一
一
二
六

九	九	九	八	八	八	八	八
年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日

(三)
一
一
一
一
一
二
一

入園時の修學程度

入園當時に於ける少年達の就學狀況は左表の如くである。尋常科を終へなかつた者が百〇一名に上り、未就學者が十三名ある。

未就學	尋常一年	尋常二年	尋常三年	尋常四年	尋常五年
一三	九	一五	二五	二二	三〇
尋常六年	高等一年	高等二年	中學一年	教員養成所生	
三五	八	一	二	一	

これらの少年達が尋常小學校をも卒業しなかつた理由は種々あらう。家庭の貧窮もその一つであらう、しかしその上に

彼等の智能が一般に低く、學業に興味のなかつたこと、従つて缺席の多いことも考へねばならない。更に彼等の性格異常が落付いて學業にいそしむことの少いことも知つてをく必要がある。彼等は家庭愛に恵まれなかつた、學校でも他の少年達に比肩することが困難だつた。彼等の興味は家庭や學校よりも不良な少年達の群であつたらう。その巢が彼等の唯一の興味ある場所となつたであらう。

習癖及性格

少年達の性行について記録されてゐるものを拾ひあげてみよう。一人で數種を併有するものもある。入園申請者達の眼に映じた分類で、言葉もそのまま使つて置く。盜癖が最も多く大部分に認められ、浮浪、虚言、粗暴がこれに多い。

窃癖	浮浪	虚言	粗暴	剛情	短氣	遺尿	怠惰	浪費	残忍	惡質	復讐心	放火癖
一五三	四六	三七	二九	二四	一九	一八	一六	一七	六	五	四	四
多血質	横着	吃音	因循姑息	多眠	多眠	陰險	無錢乘車癖	蒐集癖	賭博癖	器用癖	投石癖	色情充進
三	二	二	一	二	一	一	一	二	一	一	一	一

趣味嗜好

趣味嗜好の部へ記入されてゐるものゝ中では、映畫見物と買喰ひが最も多い。

映畫	六四	玩具	三
買喰	四三	釣魚	二
菓子	一三	物品投與	二
喫煙	六	餅戲	二
講談	六	惡戯	二
果物	五	孤獨を愛す	一
乗物	五	魚	一
殺動物	四	讀書	一
運動	四	飲酒	一
遊戯	三	農事	一
遊興	二	珍物	一
動物	三		

入園前に既に飲酒、喫煙、遊興を好む早熟の少年のあることに注意せねばならない。

現在入園生調査

以上は過去に於ける記録を調査したものであるが、現在在る少年についての調査を左に記録してみよう。未だ研究しな
い項目も澤山あるが、昭和十一年四月から十二月に及ぶ間に於ける觀察の一部で整理すみのものをこゝに發表しておく。

一般智能検査

犯罪者や教護少年の智能に關しては、多くの學者が研究を發表してゐる。ゴダードは犯罪者は先天的のものではなく、後天的のものであつて、生來性の犯罪型と稱されるものは精神薄弱(低能)の特色の一つに過ぎない、彼等はその智能が低劣であるがために善惡の判断が不完全である、たとひ智能が普通でも犯罪から免れる意力と判断を缺くから犯罪者に落ちて終ふのである。精神薄弱であるから環境が悪いとすぐ犯罪に結びつくのであると主張してゐる。ゴダードは不良少年の半數は精神薄弱者だといふ。ターマンも同様の説で二十五%と主張してゐるし、バートは六十八%と報告してゐる。これに反對してゐる學者もあるが、多くは精神薄弱者の高率に存在することを主張してゐる。

我國に於ける調査では

武藏野學院	三百五十四名	劣等兒	六〇・八%
正常兒	二六・五五%	低能兒	一六・七%
精神薄弱兒	五二・五四%	長野縣波多學院	一五・五%
變質者	二〇・九一%	普通兒	五一・二%
廣島修養院	七十八名	劣等兒	三三・三%
優秀者	なし	浪速少年院	四三・三六%
普通者	九・〇%	優秀兒	〇・四六%
精神薄弱(智能指數八〇以下)	五九・〇%	普通兒	一四・九一%
京都府少年教育相談所	百七名	劣等兒	四七・四八%
優良兒	〇・九%	低能兒	三七・一六%
普通兒	二二・四%		

これ等の諸結果は、検査法も一様でないし、その分類にも統一はないと思ふが、大體その傾向は一致してゐる。私はビ
ネエ・シモン氏法により精神年齢を測定し、又桐原葆見氏案の一般智能検査法を行つてみた。こゝでは後者の結果を報告

して置く。桐原氏の「智能検査法」は完成法、類推法、再認法、圖形分類法の四種の作業からなり、全く文字を使用しないテスト用紙で、六歳以上四十歳以下の日本人男女約一万二千人について行はれた結果から規準を作製されたものである。修學程度の低い學園の少年達には、文字や言語への親疎が問題にならないので、適當だと考へて施行した。

結果は既に作製されてゐる各年齢の規準に照校して決定した。これは百分段階規準によるもので、ある個人の得點を當該年齢及性の規準と對照して、その幾パーセントの位置に相當するかを定めて、それに順位を與へる。この順位は各作業成績の比較的位位置を示すものであるから、平均順位をもつて出来る、その結果がその個人の素質の比較的尺度を示すのである。そして五〇%位が最も普通の人で、一〇〇%は最優秀で、〇%が最劣等である。それに各五〇點を加へるとは、ビネエ・シモン法の智能指數(I・Q)に相當する。

三方原學園に於ける四十六名の結果は左表の如くである。

姓	名	生活年齢	I・I 検査	II 検査	IV 検査	平均段階	智能指數
小	定	八年・三月	三	二〇	〇	(八)一〇	六〇
大	祐	九・三	一〇	〇	二〇	(一〇)一〇	六〇
杉	政	九・一〇	一	五〇	三〇	(三〇)三〇	八〇
栗	眞	一〇・四	三	四〇	〇	(一四)一〇	六〇
榛	芳	一〇・五	一	三〇	七〇	(三六)四〇	九〇
小	力	一〇・八	三	一〇	四〇	(二七)三〇	八〇
大	泰	一〇・〇	二	四〇	二〇	(二七)三〇	八〇
内	保	一一・三	三	一〇	二〇	(一〇)一〇	六〇
宮	忠	一一・四	七	三〇	七〇	(七〇)七〇	一一〇

姓	名	生活年齢	I・I 検査	II 検査	IV 検査	平均段階	智能指數
岡	政	一一・七	一〇	三	七〇	(二八)三〇	八〇
戸	邦	一一・七	七〇	二〇	二〇	(三三)三〇	八〇
望	一	一一・八	二〇	一〇	〇	(二二)二〇	七〇
太	幸	一一・一〇	一	六〇	〇	(四)三	五三
増	三	一一・一〇	三	六〇	〇	(三〇)三〇	八〇
宮	教	一一・二	四〇	五〇	四〇	(四三)四〇	九〇
西	一	一一・二	四〇	六〇	三	(四三)四〇	九〇
土	勝	一一・二	四〇	六〇	三	(四三)四〇	九〇
鈴	〇	一一・三	一〇	五〇	三	(二四)二〇	七〇
渥	秀	一一・三	三〇	八〇	一〇	(二二)二〇	七〇
小	滿	一一・三	三〇	八〇	一〇	(五七)六〇	一一〇
佐	〇	一一・三	三〇	九〇	三	(九)一〇	六〇
水	幸	一一・三	六〇	二〇	七〇	(七三)七〇	一一〇
田	高	一一・三	三	九〇	一〇	(八)一〇	六〇
市	〇	一一・三	四〇	一〇	九八	(七二)七〇	一一〇
河	寅	一一・三	三	八〇	三〇	(二八)三〇	八〇
寺	基	一一・四	一〇	五〇	一〇	(二七)三〇	八〇
澤	德	一一・四	三	六〇	三	(二)三	五三
佐	正	一一・五	二〇	〇	七〇	(三三)三〇	八〇

安	後	勝	高	河	伊	早	木	竹	佐	高	山	萩	三	原	花	鈴	杉
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
謙	一	繁	勝	新	喜	一	國	理	時	彦	清	久	松	良	剛	太	俊
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一七	一七	一七	一七	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一五	一五	一五	一五	一四
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
九	四	三	二	八	八	七	七	七	七	三	一	〇	八	七	六	二	七
六	三	三	三	一	一	一	三	二	一	三	三	三	二	四	一	三	三
〇	三	三	三	〇	〇	〇	三	〇	〇	三	三	三	〇	〇	〇	〇	三
五	二	一	三	二	一	七	六	三	四	二	四	二	六	五	三	四	四
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四	三	一	二	三	三	一	一	三	三	三	三	三	四	五	三	三	三
〇	三	〇	〇	三	〇	〇	〇	〇	三	三	三	三	〇	〇	三	三	三
(五〇)	(九)	(八)	(一八)	(一一)	(一七)	(三〇)	(五)	(三七)	(一一)	(一八)	(九)	(一五)	(九)	(四〇)	(四六)	(一四)	(一五)
五〇	一〇	一〇	二〇	一〇	二〇	三〇	三	四〇	二〇	二〇	一〇	一〇	一〇	四〇	五〇	一〇	一〇
一	六	六	七	六	七	八	五	九	六	七	六	六	六	九	一	六	六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

三〇

右の結果を整理するに左の如くなる。

得点	人数	百分率
三	三	六・五%
一〇	一五	三二・八%
二〇	六	一三・〇%
三〇	一一	二七・五%
四〇	五	一〇・九%
五〇	二	四・三%
六〇	一	二・二%
七〇	三	六・五%
精神薄弱	三五	七六・〇%
普通	七	一五・二%
優秀	四	八・七%

この結果から三〇以下を精神薄弱とし、四〇と五〇を普通とし、六〇と七〇を優秀とすれば左表の如くなる。

智能指数(I・Q)から見れば、八〇以下を精神薄弱とするのが普通であるから、右の結果の三〇以下がそれに相当し、七十六%の多数になる。その中をもつと詳細に分類すれば、

- 魯鈍に相当する者 (得点三〇) 一名
- 癡愚に相当する者 (得点二〇及一〇) 二名
- 白痴に近い者 (得点三) 三名

これ等の精神薄弱の程度に關する分類は、便宜的のもので、學者によつても異なるものである。普通と優秀との區別も本法では五〇を普通とし、それ以上を優秀としてゐるし、ビネエ・シモン法でも一〇〇が普通で、それ以上増加する程優秀となる。私の調査では七〇(I・Q二二〇)の得点を示した者が三名ある、これは智能が普通よりやや優れてゐると認めて

よい。三名の最劣等児は、自分の姓名をも完全に書けないもので、重症癡愚とも云へるし、白痴に近いものである。被験者の多少もあるので他の結果とすぐ比較するのは困難であるが、私の調査でも他の調査者の如く精神薄弱者が半数以上に存在してゐる結果をみた譯である。桐原氏の某感化院調査の結果は私のとほぼ一致してゐる。

調査者によつて多少の相違はあるにしても、保護少年の中に精神薄弱者が普通の少年よりも多いことは否定出来ない事實である。教護院に於ける取扱上にも、この點に注意しなければならぬ。單なる補助教育は元より効果が少いであらうが、保護少年特有の低能教育が必要であると思ふ。

向性検査

氣質診断法は種々あるが、私は淡路圓治郎氏の向性指數を算出する検査法を用ひた。向性とはユングの内向型、外向型の分類から出たものである。外向型とはリビドー（無意識的な精神力）が外向に作用するもので、主観的興味が外界に向つて積極的に動くものである。内向型とはリビドーが内向的に作用するもので興味や客體から主體に向ふものである。淡路氏は左の如き外向性徴候に關する質問二十五、内向性徴候に關する質問二十五からなる検査用紙を案出し、被験者はそれを自己の性情に照校して反省し「はい」又は「いいえ」二つの中から選擇させる。その結果は向性指數に換算される。指數は一〇〇を中心として、〇から二〇〇に至る數で現れる。一〇〇が理想的兩向性態であつて、一〇〇以上に増せば外向性傾向が強く、一〇〇以下に減すれば内向性傾向が優勢であることを示す。一〇〇を距れば距れるほど外向性又は内向性が強いことを示してゐる。この結果を智能指數と併用すれば、その人格的知的及情意的特色を簡單に表示し、個性の概容を知ることが出来る譯である。

向性検査

(標準案)

姓名 (男女) 淡路圓治郎
 年齢
 所屬
 日附 年 月 日

外向點	
無應答	
向性指數	
相對向性指數	

記入法 次の五十の問題をよく讀んで、自分の性情を反省し、質問の通りであれば「はい」反對であれば「いいえ」に「〇」のしるしをつけなさい。はい、いいえのどちらともきめられぬ時は、その儘にして置きなさい(原案は横組印刷物である)

- | | | |
|----------------------|----|-----|
| 1 些細のことでも氣に病みますか | はい | いいえ |
| 2 すぐに決心がつきますか | はい | いいえ |
| 3 大事をとつて實行に暇どりますか | はい | いいえ |
| 4 決心を後から變へることが出来ますか | はい | いいえ |
| 5 思案するよりは活動する方が好きですか | はい | いいえ |
| 6 陰氣ですか | はい | いいえ |
| 7 失敗に懲りますか | はい | いいえ |
| 8 呑氣ですか | はい | いいえ |
| 9 無口ですか | はい | いいえ |
| 10 感情をすぐに面に現しますか | はい | いいえ |
| 11 よくはしやぎますか | はい | いいえ |
| 12 氣がかわりやすいですか | はい | いいえ |
| 13 物事に凝り固まりますか | はい | いいえ |
| 14 辛棒強いですか | はい | いいえ |
| 15 理屈っぽいですか | はい | いいえ |
| 16 議論が過激に走り易いですか | はい | いいえ |
| 17 用心深いですか | はい | いいえ |
| 18 動作がきびきびしてゐますか | はい | いいえ |
| 19 仕事に縮密ですか | はい | いいえ |
| 20 派手な仕事が好きですか | はい | いいえ |
| 21 仕事に夢中になりますか | はい | いいえ |
| 22 空想家ですか | はい | いいえ |
| 23 潔癖過ぎますか | はい | いいえ |
| 24 持物をなげやりにしますか | はい | いいえ |
| 25 無駄づかひが多いですか | はい | いいえ |
| 26 話しすぎですか | はい | いいえ |

27	氣むづかしやですか	はい	いゝえ
28	冗談を云ひますか	はい	いゝえ
29	おだてられやすいですか	はい	いゝえ
30	剛情ですか	はい	いゝえ
31	不満が多いですか	はい	いゝえ
32	自分の評判が気に入りますか	はい	いゝえ
33	他人の批判がしたいですか	はい	いゝえ
34	自分のことが他人にまかせられますか	はい	いゝえ
35	人から指圖されるのが厭ですか	はい	いゝえ
36	人の上に立つてうまく治めてゆくことが出来ますか	はい	いゝえ
37	他人の意見を素直に聞入れますか	はい	いゝえ
38	よく気が利きますか	はい	いゝえ
39	隠し立てをしますか	はい	いゝえ
40	他人に直ぐに同情しますか	はい	いゝえ
41	他人を信じますか	はい	いゝえ
42	恨が忘れられないですか	はい	いゝえ
43	はにかみやですか	はい	いゝえ
44	獨りぼちであるのが好きですか	はい	いゝえ
45	友達を作るのに骨が折れますか	はい	いゝえ
46	人前で平氣で話せますか	はい	いゝえ
47	人目につく所ではいつも引込んでゐますか	はい	いゝえ
48	意見のちがふ人とでも氣輕につきあつて行けますか	はい	いゝえ
49	世話好きですか	はい	いゝえ
50	惜まらずに物を與へますか	はい	いゝえ

この検査法を學園の少年達三十七名に施行した結果は左表の如くである。

姓名	外向點	無反應	向性指數
杉・俊	一〇	〇	四〇
土・一	一三	〇	四二
杉・政	一五	〇	六〇
高・彦	一六	〇	六四
佐・正	一七	〇	六八
高・勝	一〇	一六	七二
伊・幸	一九	〇	七六
大・祐	一九	〇	七六
小・滿	二一	〇	八四
鈴・勝	二一	〇	八四
戸・邦	二一	〇	八四
河・寅	二二	一	八六
三・松	二二	〇	八八
山・清	二二	〇	八八
望・四	二三	〇	九二
鈴・太	二四	二	〇〇
萩・久	二五	〇	〇〇

姓名	外向點	無反應	向性指數
花・剛	二六	〇	一〇四
寺・基	二六	〇	一〇四
宮・忠	二七	〇	一〇八
渥・德	二七	〇	一〇八
竹・理	二七	四	一一六
小・定	二九	〇	一一六
增・幸	二九	一	一一八
勝・繁	二八	三	一一八
佐・包	三〇	〇	一二〇
岡・政	三〇	〇	一二〇

この結果をみると、最小四〇で最大一五六で、平均は一〇一・六である。

九〇以下の者 一四
 一〇〇以上の者 二〇
 平均は一〇一・六であるが、百以上の者の数が多く、外向性の氣質の強い者の多いことを示してゐる。淡路氏が某感化院男生五十六名に施行された結果の平均は一〇一・二であつた。

血液型検査

氣質の生理學的研究の一つとして、古川竹二氏は血液型に關する業績を發表してゐる。氏によればA型はゾントの憂鬱氣質に、B型は多血質に、O型は粘液質に、AB型は多血、憂鬱の混合型に屬す、A型とB型は感情的であり、O型は意志的である、O型、B型は積極型で、A型、AB型は消極形としてゐる。石川七五三氏は氣質を積極型・消極型、自己



主張型(主我型)、自己抑壓型(沒我型)の四種に分類し、情意的傾向の對象性に於ける主我性はO型及A型に最も強く現れ、沒我性はB型及AB型に強く現れ、情意的傾向の進行性からみれば、A型及AB型は積極的特色を表現し、O型及B型は消極的傾向を持つと主張してゐる。猶古川氏は團體活動性指數(A-P)を設定して、それが一・〇の時はその團體は消極的な人と、積極的の人が相半してゐるし、一・〇以下であれば消極的な人が多いから、その團體は溫良、消極的であるし一・〇以上であれば積極的の人が多いから、その團體性は積極的であるとしてゐる。

私は曾て新潟學園の敎護少年達の血液型を調査したことがあつた、それを他の諸氏の調査と、今回三方原學園に於ける結果を比較してみよう。被験者四十名で、その分類は左表の如くである。

- A 型 十七人
 - 栗・眞。戸・邦。宮・忠。佐・正。西・數。杉・政。渥・秀。土・一。高・彦。荻・久。伊・久。伊・喜。鈴・泰
 - 佐・包。三・松。大・祐。内・保。瀧・竹。
 - AR 型 一人
 - 鈴・勝。
 - B 型 八人
 - 渥・德。小・定。山・清。望・四。岡・政。榛・芳。原・良。竹・理。
 - O 型 十四人
 - 杉・俊。後・一。太・一。佐・持。宮・三。市・昇。安・謙。小・清。花・剛。寺・基。河・寅。大・泰。増・幸。勝・繁。
- この結果を整理すると左の如くなる。
- | | |
|-------|-------|
| A 型 | 四二・五% |
| A B 型 | 二・五% |
| B 型 | 二〇・〇% |
| O 型 | 三五・〇% |

團體活動性指數(A-P) 一・二〇
 即ちこの集團は活動性指數が一・〇以上であつて、古川氏の積極的傾向にある。諸家の調査との比較は次表の如くである。

検査集團	O	A	B	AB	A-P	人数	調査者
三方原學園	三五・〇	四二・五	二〇・〇	二・五	一・二〇	四〇	式場
新潟學園	三二・六	三九・一	二三・九	四・三	一・三〇	四六	式場
浪速少年院	三六・一	三一・三	二三・六	九・〇	一・四八	二三	浪速少年院
保護少年	三〇・四	三九・〇	二一・一	九・五	一・〇六	三一	霜鳥
成人受刑者	三二・三〇	三七・二七	一九・五七	一〇・八七	一・〇八	三二	石橋
愛知學園	二三・一	四三・六	一八・〇	一五・四	〇・七〇	七八	石川
日本人	三一・〇	三八・二	二一・二	九・六	一・〇九	二〇	醫學者數氏 調査平均

右の表が示す如く諸家の調査は區々で一致してゐない。殊に團體活動性指數に於て、愛知學園では〇・七で消極的傾向にある。この研究は興味深い、未だ斷定を下すには早いと思ふ。

意志氣質検査

ダウナーが案出し桐原葆見氏が改訂されて、日本の少年青年男女五千名に試みて標準化された「意志氣質検査」を學園の少年達に施行した。この検査法は左の如きテストから成立してゐる。

(B) 決断の速さ	(C) 動作の速さ	(D) 運動の能	(E) 検査2Bに對する検査Aの比	(F) 意志動作の擴張度	(G) 妨害に抵抗する意志的發動度(驅御)	(H) 自信の強さ	(I) 決断した所への決定性	(J) 衝動的意志的抑制	(K) 眼と手との共應動作の精密度(精密)	(L) 細部への關心の大小	(M) 一事に固執し用心する度	
(決断)	(動作)	(運動)	(比)	(擴張)	(驅御)	(自信)	(決定)	(抑制)	(精密)	(細心)	(執心)	
検査	同 2	同 2	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査	
1	A	B	A	A	B-C-D	A	9	10	3	5	6	7
運動性の検査				進行性の検査				思慮性検査				

Aは先に掲げた桐原氏的一般智能検査による結果を加へ参照する。この意志検査の結果は、その作業毎に規準に照校して百分段階に於ける段位を定め、それを曲線に直して意志プロフィールに表現する。その意志氣質類型は左の如くに分類されてゐる。

積極型——全體として段階が普通の中央五〇より上に位するもの。

消極型——全體として普通より下位にあるもの。

不定型——上下種々交錯して、いづれとも定め難いもの。

猶この検査を次の如くに分類されてゐる。

運動型——決断の速さ、動作の速度、運動能並にこの後二者の比に於て、比較的高い段階にあつて、その他が低いもの。

進攻型——擴張度、意志的運動驅御、自信の強さに於て、比較的高い段階にあつて、他は低いもの。

思慮型——運動抑制、目と手との協應の精密さ、細密への關心或は細心度及一つの仕事への執心に於て、比較的高位を占め、その他は低いもの。

この他に混合型として左のものがある。

- 運動・進攻型
- 運動・思慮型
- 進攻・思慮型

學園少年三十六名の本検査の結果は左表の如くである。

姓少年被	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
名年驗	一般	決断	動作	運動	比	擴張	衝動	自信	決定	制御	精密	細心	執心
	(檢1)	(檢2A)	(檢2B)	2B/2A × 100	(檢8A)	(檢8BCD)	(檢9)	(檢10)	(檢3C)	(檢5)	(檢6)	(檢7)	
勝・繁	一〇	一〇	一〇	一〇	五〇	二〇	三〇	六〇	七〇	八〇	七〇	五〇	二〇
伊・喜	二〇	二〇	二〇	三〇	八〇	〇	〇	二〇	四〇	九〇	三〇	六〇	〇
宮・忠	七〇	六〇	二〇	五〇	九〇	四〇	六〇	五〇	七〇	四〇	七〇	三〇	一〇
渥・秀	二〇	五〇	二〇	四〇	八〇	四〇	四〇	一〇	九〇	〇	四〇	五〇	二〇

これらの結果を平均して、一つの意志プロフィールに纏めると左圖の如くなる。

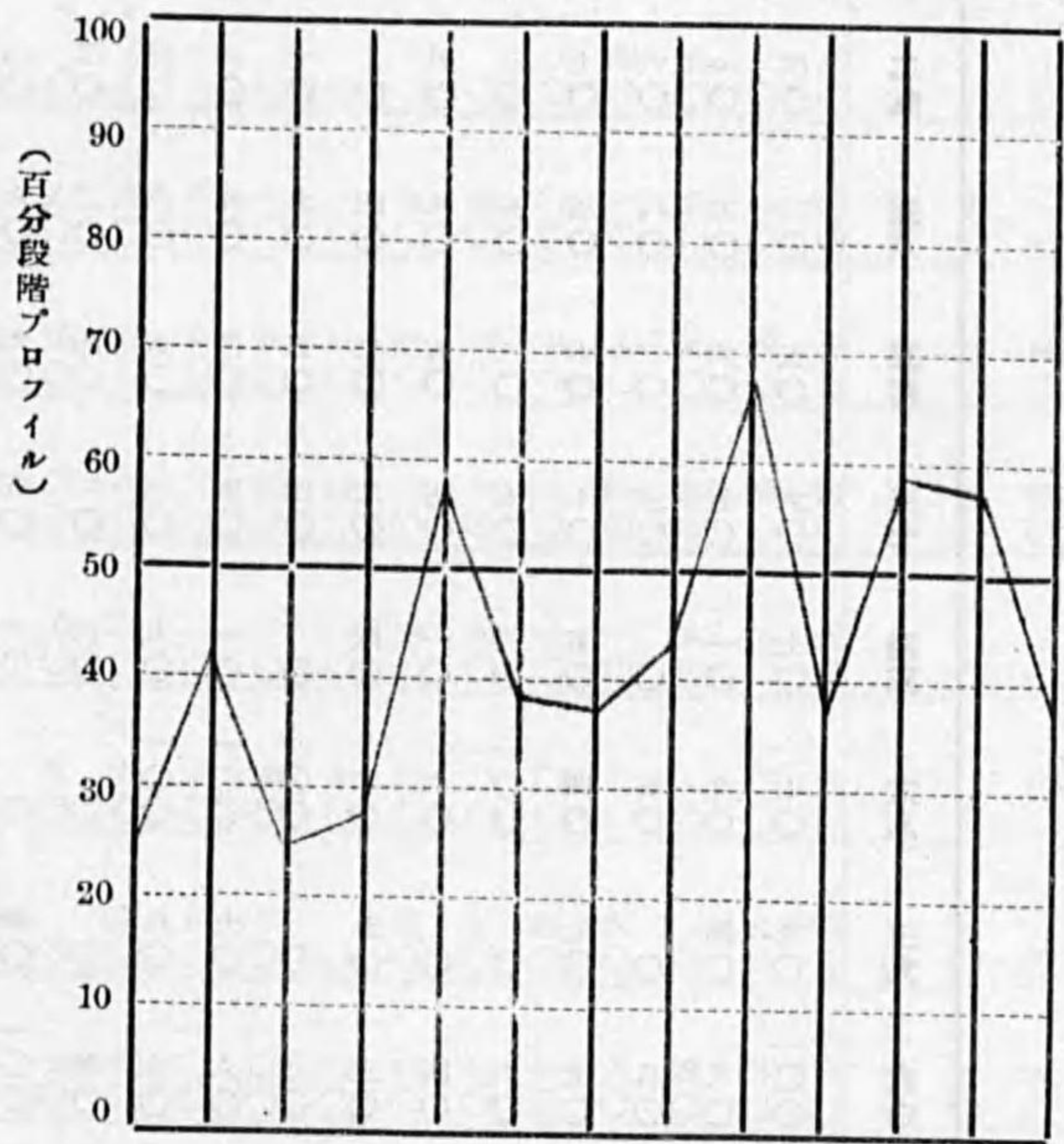
平均	竹	戸	増	佐	西	佐	杉	棒	市	原	鈴	土	安
二六	四〇	三〇	三〇	三〇	四〇	一〇	三〇	一〇	七〇	四〇	一〇	三〇	五〇
四三	八〇	〇	一〇	一〇	五〇	九〇	二〇	九〇	七〇	六〇	七〇	二〇	八〇
二四	三〇	二〇	三〇	三〇	一〇	四〇	一〇	四〇	三〇	三〇	八〇	一〇	七〇
二九	六〇	二〇	二〇	二〇	三〇	一〇	七〇	〇	五〇	三〇	七〇	六〇	四〇
五八	九〇	六〇	二〇	六〇	八〇	九〇	四〇	八〇	五〇	三〇	八〇	五〇	二〇
三九	五〇	六〇	四〇	五〇	四〇	五〇	二〇	五〇	三〇	六〇	三〇	六〇	五〇
三七	三〇	五〇	三〇	三〇	三〇	五〇	二〇	四〇	五〇	七〇	三〇	五〇	六〇
四三	〇	二〇	三〇	三〇	一〇	九〇	四〇	一〇	三〇	五〇	〇	一〇	七〇
六八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二〇	一〇	六〇	一〇	四〇	五〇	七〇
三九	三〇	四〇	〇	〇	八〇	九〇	五〇	〇	〇	七〇	四〇	九〇	〇
六〇	六〇	〇	四〇	九〇	六〇	二〇	三〇	四〇	六〇	七〇	八〇	八〇	一〇
五八	三〇	七〇	一〇	三〇	五〇	五〇	七〇	五〇	二〇	三〇	七〇	六〇	五〇
三七	〇	三〇	三〇	二〇	二〇	一〇	一〇	〇	六〇	一〇	一〇	一〇	三〇

望	高	萩	小	後	杉	花	佐	大	三	山	大	小	内	河	岡	寺	鈴
二〇	二〇	一〇	六〇	一〇	一〇	五〇	二〇	三〇	三〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三〇	三〇	二〇
六〇	三〇	五〇	五〇	七〇	四〇	九〇	六〇	六〇	六〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	四〇	三〇	七〇
〇	一〇	一〇	四〇	一〇	五〇	一〇	四〇	五〇	四〇	一〇	六〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇
〇	一〇	一〇	一〇	二〇	三〇	八〇	二〇	四〇	五〇	三〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二〇
六〇	五〇	三〇	一〇	七〇	二〇	二〇	一〇	一〇	一〇	九〇	五〇	九〇	一〇	一〇	一〇	九〇	六〇
二〇	三〇	六〇	四〇	二〇	三〇	三〇	三〇	三〇	五〇	五〇	四〇	六〇	四〇	二〇	四〇	六〇	五〇
九〇	六〇	九〇	八〇	一〇	一〇	九〇	五〇	〇	三〇	六〇	一〇	二〇	七〇	一〇	三〇	五〇	九〇
二〇	三〇	六〇	四〇	二〇	三〇	三〇	三〇	三〇	五〇	四〇	四〇	四〇	四〇	三〇	四〇	四〇	五〇
九〇	九〇	九〇	四〇	七〇	八〇	二〇	〇	七〇	一〇	九〇	七〇	〇	〇	〇	〇	九〇	九〇
三〇	四〇	〇	〇	五〇	七〇	四〇	八〇	〇	五〇	〇	一〇	〇	七〇	〇	四〇	〇	四〇
六〇	七〇	六〇	〇	〇	二〇	六〇	九〇	一〇	六〇	四〇	四〇	〇	〇	〇	一〇	一〇	九〇
九〇	七〇	四〇	七〇	一〇	九〇	七〇	九〇	一〇	九〇	五〇	九〇	一〇	三〇	二〇	五〇	六〇	六〇
六〇	〇	三〇	一〇	〇	五〇	〇	〇	六〇	五〇	一〇	〇	〇	〇	六〇	一〇	四〇	一〇

三十六名平均意志プロフィール

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
一般	決	動	運	比	擴	衝	自	決	制	精	細	執
能	斷	作	動		張	動	信	定	御	密	心	心
	(檢	(檢	(檢	^{2B}	(檢	(檢	(檢	(檢	(檢	(檢	(檢	(檢
	1)	2A	2B	×100	8A	8BCD	9	10	3C	5	6	7

百分	26	43	24	29	58	39	37	43	68	39	60	58	37
段階													



一般智能
 決 動 運 比 擴 衝 自 決 制 精 細 執
 斷 作 動 張 動 信 定 御 密 心 心
 運動性 進攻性 思慮性

この結果を桐原氏が某感化院少年五十四名に施行されたものと比較してみると大體似てゐる。一般智能の平均が三〇%以下にあることは一致し、プロフィールも決断が遅く、自信及決定に於て高く、抑制心が弱い點も一致してゐる。個々の表をみるに

積極型	六
消極型	一一
不定型	一九
進取型	五
運動型	三
思慮型	六
進取・思慮型	五

慾望調査

昭和十年五月二十六日、學園の少年達三十五名を講堂へ集めて、慾望を中心にして次のやうな質問をして答案を記述させた。僞らず正直に書くことを命じ、無記名でよいと断つておいた。

- 一、好きな花、食物、遊戯、仕事、學科、人物。
- 二、嫌ひな食物、仕事、人物、學科。
- 三、父母、同胞、その他家族中で誰が一番好きか。家へ歸りたいと思ふか。歸らんでもいいと思ふか。
- 四、將來何をしたと思ふか。何になりたいか。
- 五、自分の長所。自分の短所。
- 六、一番怖いものは何か。一番欲しいものは何か。活動は好きか、嫌ひか。

- 七、頭か身體か悪い所があるか。
 - 八、仲のいい友人は何人あるか。
 - 九、神や佛を信仰してゐるか。
 - 一〇、夢をみるか、みないか。昨夜の夢は何であつたか。
 - 一一、女の子は好きか、嫌ひか。
 - 一二、今の生活は苦しいか、楽しいか。
 - 一三、今迄金はどの位まで持つたことがあるか、その最高を書いてみよ。
 - 一四、農事は好きか、嫌ひか。
 - 一五、今の食物は十分か、足りないか。
 - 一六、酒をのんだことがあるか。煙草をのんだことがあるか。
 - 一七、學園に對する希望があつたら遠慮なく書いてみよ。
 - 一八、現在の心境を語れ。今の氣持の中で、どんなことが一番大きい問題であるか書いてみよ。
- 右の問題は私が十分に説明し、時間も出来るだけ長く與へた。結果は次の如くであつた。

好きなもの

花

- 櫻(八)、菊(四)、けし(三)、ダリヤ(三)、朝顔(二)、チュウリップ(二)、金魚草(二)、三色菫(二)、百日草(二)
- 薔薇(一)、スキートビー(一)、ガーベラ(一)、デージー(一)、水蓮(一)、葵(一)、グラジオラス(一)、梅(一)。

食物

- ライスカレー(五)、バナナ(三)、豆(三)、大福餅(二)、ぼた餅(二)、林檎(二)、西瓜(二)、壽司(一)、羊かん
- (一)、おはぎ(一)、かれい(一)、飴玉(一)、魚(一)、饅頭(一)、ひじき(一)、菓子(一)、パン(一)、肉(一)、梨
- (一)、パイナップル(一)、チョコレート(一)、オムレツ(一)、かんぴやう(一)。

遊戯

- 野球(一〇)、鐵棒(七)、テニス(五)、相撲(二)、ブランコ(二)、運動(二)、リレー(一)、戦争ごっこ(一)、蹴球
- (一)、山行(一)、自轉車乗(一)。

仕事

- 開墾(二六)、荷車で物を運ぶ事(五)、フグイ(四)、園藝(四)、耕作(二)、鑄物屋(一)、自轉車屋(一)、薪木拾ひ
- (一)、玩具製作(一)、灌水(一)、機械仕事(一)。

學科

- 讀方(二〇)、算術(七)、圖畫(七)、歴史(三)、書方(三)、體操(二)、珠算(一)、作業(一)、理科(一)、唱歌(一)。

人物

- 楠木正成(二四)、東郷元帥(四)、乃木大將(三)、加藤清正(二)、大石良雄(二)、二宮金次郎(二)、エヂソン(二)
- 豊臣秀吉(一)、牛若丸(一)、西郷隆盛(一)、織田信長(一)、市川右太衛門(一)、渥美太郎(一)。

嫌ひなもの

食物

- 河豚(六)、どぜう(五)、冬瓜(五)、葱(三)、トマト(三)、大根(二)、馬鈴薯(二)、梅干(一)、南瓜(一)、人蔘
- (一)、こんにやく(一)、鹽辛(一)、鰻(一)、ひじき(一)、エゴ(一)、鮭(一)。

仕事

- 嫌ひな仕事なし(二一)、土石運び(八)、開墾(四)、耕作(三)、肥料擔ぎ(三)、大便汲み(一)、擔ぎもの(一)、便
- 所掃除(一)、フグイ(一)、車引(一)、根掘り(一)。

學科

- 書方(九)、算術(七)、綴方(五)、讀方(五)、珠算(五)、唱歌(二)、理科(一)、體操(一)。

人物

- 北條高時(八)、足利尊氏(五)、石川五右衛門(四)、北條時宗(三)、なし(三)、吉良上野(一)、徳川家康(一)、北
- 條早雲(一)、朝鮮人(一)、徳由(園生)(三)、岡村(園生)(二)、杉山(園生)(一)、小澤(園生)(一)、佐野(園生)(一)。

家族の中で最愛の者

父(八)、兄(八)、姉(五)、叔父(三)、母(二)、弟(二)、祖父(二)、園長(二)、祖母(二)、叔母(二)、妹(一)。

歸郷慾の有無

歸りたい 三二
歸りたくない(或は家がない) 三

將來の希望職業

軍人(八)、壽司屋(五)、八百屋(三)、自轉車屋(二)、商人(二)、電氣屋(二)、理髮屋(二)、豆腐屋(二)、乾物屋(二)、職工長(二)、製茶業(二)、左官(二)、機關士(二)、染物屋(二)、靴屋(二)、機織業(二)、飛行士(二)、自動車運轉手(二)、自動車屋(二)、音楽家(一)。

自己の長所

なし(二〇)、よく働く(五)、親切(四)、正直(三)、不明(二)、喧嘩しない(一)、云ふことをきく(一)、動物を愛す(一)、圖書(一)、炊事(一)、獨立心(一)、器用(一)、熱心(一)、蔭ひなた無し(一)、自轉車乗(一)、書方(一)。

自己の短所

短氣(九)、なし(五)、するい(三)、熱心(三)、弱者いぢめ(三)、遊惰(二)、虚言(二)、ふざける(一)、物事を氣にかける(一)、殺生(一)、頭が悪い(一)、すねる(一)、學園脱走(二)、悪口(一)、仕事嫌ひ(一)。

怖いなもの

蛇(二)、ライオン(四)、病氣(二)、狐(二)、犬(二)、爆彈(二)、お化け(二)、地震(一)、夜道(一)、鰐(一)、やもり(一)、巨物(一)、毛蟲(一)、虎(一)、龍(二)、鼠(一)、巡査(一)。

欲しいもの

金錢(二)、なし(四)、自轉車(三)、菓子(二)、智慧(二)、食物(一)、ボート(一)、セバード(一)、ダイヤモンド(一)、ピアノ(一)、信用(一)、家(一)、本(一)、學用品(一)、馬(一)、寫真機(一)、バナナ(一)、飴玉(一)。

映畫への興味

好き (二九)

身心の違和

嫌ひ (六)

なし
頭が悪い 一八
齒が悪い 四
胃が悪い 二
腹が悪い 一
胸が悪い 一

心臓が悪い
耳が悪い
眼が悪い
鼻が悪い
足が悪い
身體が悪い

親友の數

二人(二〇)、三人(六)、一人(五)、四人(四)、五人(二)、六人(二)、八人(二)、十人(三)、なし(二)、十八人(一)。

信仰

神佛を信ず(二四)、神(九)、なし(二)。

夢

夢をみる(二二)、夢はみない(二二)、忘れた(二)。

女性への關心

女は嫌ひ(二六)、女は好き(一三)、どつちともきめられない(二)、半分好き(二)、少し好き(二)、不明(二)。

今の生活について

楽しい(三〇)、苦しい(三)、不明(一)、學園は苦しいが樂園は楽しい(一)。

既往所持最高金額

五十錢以下(二)、五十錢—一圓(二)、一圓—十圓(八)、十圓—二十圓(七)、二十圓—三十圓(二)、三十圓—四十圓(二)、四十圓—五十圓(四)、五十圓—百圓(三)、百圓—二百圓(三)、五百圓(一)、八百五十圓(一)、九百圓(一)。

農業への好悪

好き(二七)、嫌ひ(七)、きめられない(一)。

食事の充分不充分

充分(三十四)、不明(一)。

飲酒の経験

飲んだことがある(二六)、ない(九)。

喫煙の経験

喫つたことがある(二六)、ない(九)。

學園への希望及現在の心境

- | | | | |
|-------------------|------|-----------------|-----|
| 退園したい | (一一) | オルガンを弾かせて欲しい | (一) |
| 日曜日は一日休みにして欲しい | (四) | 學科をもつと厳しく教へて欲しい | (一) |
| 水泳を早く許して欲しい | (四) | 牛を二頭飼つて欲しい | (一) |
| 奉公にやつて貰ひたい | (三) | もつと色々の仕事をさせて欲しい | (一) |
| いゝ人間にして貰ひたい | (二) | 旅行をさせて欲しい | (一) |
| 尋常科修了生にも學科を教へて欲しい | (二) | ゆつくり退園したい | (一) |
| 希望なし | (二) | 意味不明 | (一) |
| 本をもつと讀まして欲しい | (一) | | |

諸種の心理學的調査以外に、このやうな自由な表現によつて、少年達の心境をきくのも興味深い。無記名であつたが偽らぬ記述であるか否かは斷言出来ない。然し悉くが虚勢や不誠實な答とは考へられない、當事者はこれを参考にして、今後の教護に資せられたい。

好きな花では櫻と菊が多い、食物ではライスカレーが最高點なものも微笑ましい。遊戯では流行の野球が最高位である。仕事では開塾を好む者が半數に近い。學科では讀方を好む者が一番多かつた。好きな人物では楠正成が斷然多く、東郷元帥がこれに次いでゐる。映畫俳優の右太衛門に一票を投ぜられてゐるのは可笑しい。嫌ひな食物では河豚、どぜう、冬瓜が多く、仕事では嫌ひなものなしと答へた者が一番多く、土石運びが一番嫌はれてゐる。それに次ぐ數種にはさこそと肯けるものがある。學科では書方、算術が最も嫌はれてゐるし、人物では北條高時と足利尊氏が筆頭である、同僚の園生を嫌ふ者が八人もあつたのは注意すべき點であらう。家族の中で最も愛する者は誰か?と問はれたら普通の少年達は大部分は母とか父とか答へるであらう。この少年達は哀れにも父を愛する者は五分の一位しかない、更に愕くべきは母への愛を表現した者が僅に二名しかない。園長と答へた二人の少年には、家なき彼等の淋しい表情が浮んでゐたらう。然し歸郷したいかとの間に答へる者の大部分が矢張り歸りたいのだ、何處?と反問したくなる。歸りたくない、いや歸りたくても家がないのだと答へた三人の可憐な少年があつた。

將來の希望を一覽されよ、如何に被等の望みが低いか! 大臣、大將、博士と書いた者は一人もない、軍人の次が壽司屋、八百屋である。學園出身の大臣や大將や富豪や學者の出てくることを彼等の理想にさせたいものである。自己の長所を訊かれて、流石になしと答へたものが一番多い、然しよく働くと書いた者が五人あつた。短所については短氣と自省した者が最も多い、なしと云ひ切つた者が五名、狡い、盗心がそれにつき、學園脱走を懺悔した者が一名あつた。

怖いものでは、蛇が首位で一般に動物が多いのは子供らしくて面白い。地震はあるが親爺や先生はなくて、巡查が一名ある。欲しい物では金が一番多い、これは大人も子供もないものか。欲しいもの無しと答へた者が四名、バナナ、飴玉、セブードはいゝとしても、智慧が欲しい、いや信用が欲しいと書いた少年が一人づゝあつたのは胸を打たれる。

映畫は全部好きかと思つたら、嫌ひと答へた者が六人あつた。さういふ少年にこそいふ映畫をみせてやりたい。身心の異常はないかと訊くと、ないと答へた者が半数、頭が悪いと自覺した者が五名あつた。

親友の数は？と訊いた時、席を立てて數へ始めた少年達が多かつた。頭にすぐ浮んで來ないのである、立つて顔を見て考へたり、數へたりするのである。二人と書いた者が最も多い、十八人とホラを吹いた者が一名。

信仰については、深いものを求めるのは無理であらう、信じてゐると答へた者が大部分あるが、なしと答へた者が二人あつた。

夢はもつと詳しく調べたかつたが、時間の關係で簡単にした。みないといふ者が過半数に達してゐる、もつといふ夢を澤山みせたいものである。

異性への關心の返答には、彼等も困つたらしい。この答ではう解釋したらいゝか。訊かぬ方がよかつたかも知れぬ。然し入園前に既に遊里に出没して女を知つてゐる少年も少くないのだ。

今の生活（學園）はどうか？楽しいと書いた者が大部分なのには愕いた。歸りたいか？ときかれれば大部分歸りたい辯に。正直に苦しいと悲鳴をあげた者三名、狂句もどきに駄句つた者一人。もとより學園の生活が苦しいのは、よくない、だが安住してはいけない筈だ、もつといふ世界のあることを知つて、人間生活の本道へ入る憧憬を持たせることが肝要だと思ふ。喰ひつめて、刑務所入りを志願するあの心理は排斥しなければならぬ、學園の少年でもやつと社會へ送り還されながら、すぐ苦しさにかけて學園生活の安易さに戻りたがる者がある。

今までの所持金の最高額は、意外に多額である。これ位の年輩の少年達が見ることも出來ぬ大金を持つた経験がある。過去の犯罪と結びつけて考へると恐ろしいことである。

農事は三分の二は好きだと云ふ。如何に彼等が知的に低いかを物語つてゐる。彼等の生活は學科より農事に重きをおいてゐるのだ。もつと種目を増して、手工藝も加へたり知的にも向上させたいものである。

食事は皆満腹してゐるらしい。私も屢々少年達と食卓を共にした。彼等の過去は如何に食に餓えてゐたか！彼等は今の程度の食事にも感謝してゐるのか。私は學園から歸つて、自分の家の食卓で喰ひ残す皿の多い子供達をみて感慨深いものがあつた。これは決して私のプチ・ブル的な感傷ではない。後等が社會の子供達より間食の少ないことも一因かも知れない。

い。私は學園ではもう少し菓子と云ふ、食物に變化を多くするように希望する。

飲酒と喫煙の経験のない少年は、四分の一しかない。早熟と云ふよりも、生活が純真な子供の世界でなかつたことを物語つてゐる。

現在の心境といつても、退園したいといふのが最も切實なものである。學園への希望はもつと色々あるかと思つた。彼等の理想が低いのか、遠慮してゐるのか、案外少なかつた、或はその兩方のせいかも知れない。

これらの記述を彼等は楽しんで書いた。私は屢々色々の實驗をやつたり、調査をしたりしたが、これを書かせる時が最も面白かつた。今迄の靜肅を強ひられてゐる態度を捨て、がや／＼云ひながら、笑つたり、呟いたりして書いてゐる有様は彼等の特性を發揮してゐるかに見えた。彼等は靜肅が一番苦手らしい。

私は各寮へ泊つて彼等の日記を讀んでみたが、先生に閱讀されると思つてゐるのか、月並で特色はなかつた。

七夕祭に際して

家庭に於ける少年達の楽しみの一つは、年中行事の祭りだ。學園の少年達はそんな日についてどう考へてゐるかを知るために、昭和十年七月七日の七夕に次のやうなものを書かせてみた。

一、七夕とはどんなことか。

二、いくつから知つてゐるか。

三、去年の七夕にはどんなことをしたか。

四、七夕祭の時の飾り物を繪で描いてみよう。

答へた少年は三十五名で、分類すると次の如くなる。

七夕祭の意義

知りません

一五

星を祭ることです

四

無答

四

一年一回牽牛と織女が天の川で逢ふのを祭るところです

四

去年の七夕祭の記憶

一年一回づゝ星を祭ることです
 五色の紙に字を書いて飾ることです
 支那の星祭と日本の織機を祭ることです
 竹に色々の色紙をつけて門前に飾ることです
 二つの星が年一回七月七日の夜、天の川へかけ
 たるカササギの橋を渡つて逢ふのです
 タナバタでまつるから七夕祭といふのです
 十九名は意味を知らなつた。

幾歳から知つたか

五歳から
 六歳から
 七歳から
 八歳から
 九歳から
 十歳から
 十一歳から
 十二歳から
 十三歳から
 知りません
 答なきもの
 七歳から十歳頃までに知つた者が最も多い。

五色の紙に色々のことを書いて竹に吊しました二三
 茶話會をやりました三
 楽しく遊びました三
 風が強くて竹が折れました二
 地獄極楽の圖をかけ祖先を祭り七夕の祭のお話
 をききました一
 雨が降つてゐました一
 福引や演藝會をやりました一
 面白かつた一
 七夕祭の歌をうたひ先生から七夕祭のお話をき
 きました二
 何もやりません一
 何も面白くありませんでした一
 覚えてゐません三
 答なきもの三
 意味不明のもの一
 大部分は學園での記憶を書いてゐるが、もう忘れて終つ
 た者と、何と書いていゝか分らぬ者が六人ある。

七夕祭の繪畫的描寫

竹に短冊を描いた者 一〇
 竹に短冊を吊し、それに俳句を書きこんだ者 一六
 竹、短冊、俳句、家屋を描いた者 一
 短冊に書いた俳句は次のやうである。一人で多數書いたものが多い、知らない者は全く書かず、知つてゐる者は誇らか
 に知つてゐるだけ書きつけたやうである。少年達がどんな句を覚えてゐるかの調査の意味で記録してみよう。自作の句も
 多いであらう。自分の寮や友人をよみこんだものもある。

七夕や東に流る天の川 三
 七夕や大高源吾の眞似をする 二
 七夕やあゝ七夕や七夕や 二
 七夕や母が去年の紙を出し 二
 七夕や佐渡に描いたる天の川 二
 七夕や天城寮にも福が来る 一
 曉の空にきらめく天の川 一 (以下同じ)
 七夕や團子作るに骨がをれ
 七夕や谷間の水に天の川
 七夕や大井川の銀の橋
 七夕や團子屋の店大繁昌
 七夕や五色の紙がひら／＼と
 七夕や色紙散す座敷中
 七夕や團子を猫がくはへ行く

竹、短冊、俳句、ノンキな父さんを描いた者 一
 竹、短冊、三寶に團子を描いた者 四
 海と空の夜景に俳句を書いた者 一
 竹、短冊、子供六人を描いた者 一

七夕や星の短冊紙のふさ
 雲晴れて東に流るゝ天の川
 七夕や母によく似た筆のあと
 七夕や親によく似た筆のあと
 薄暗くなりし空にも銀の星
 七夕や笹賣る人も笑ひ顔
 夕月や名の無い橋の上に立つ
 我と來て遊べや親のない雀
 七夕や赤子の喜ぶ五色がけ
 雪の日や二の字／＼の下駄のあと
 七夕や團子くはへてにげる猫
 窓あけて月夜を見れば柿一つ
 七夕や空にかゝやく天の川
 元日やもちでおし出す去年ぐそ

(一茶)

夕空に涼しく流る天の川
夕方や傳説話すおぢいさん
七夕や笹賣る人のせはしなさ
七夕や我もくんと橋の上
七夕や大井の屋根に七つ星
七夕や笹を賣り行く人もあり
七夕や渥美さんにも福の神
天の原ふりさけ見ればかすがなる

天の川原に立つは白波
七夕や流線形になつて居る
天の川原に立流れるは白波
七夕やほとりとび来る若竹に今宵の空は天の川
新竹の一番上は紙細工下に五色の紙の小細工
爆弾投下目標 西郷隆盛
番木の吹き倒さるゝこともあり柳の枝に雪折もなし
天の川天龍川に星一つ土方の親方支那人

盆 祭 に 際 し て

昭和十年七月十四日、盆に際して次の様な事項につき記述せしめた。答を書いた者は三十七名。

- 一、お盆とはどんなことか。
- 二、昨年のお盆の思ひ出。
- 三、佛教とは何か。日本にはどんな宗旨があるか。
- 四、今迄やつたことで一番悪かつたと思ふこと。
- 五、今迄やつたことで一番善かつたと思ふこと。
- 六、お盆に佛前へ供へる物を描け。

盆 の 意 義

祖先を慰める又はお祭りをする
死んだお父さんやお母さんのことを知る

一八

知りません
一年に一遍死んだお母さんお父さんを祭る日
死んだ人に念佛をしてあげること
人の死んだこと

一六

昨年の盆の記憶

神佛の御供をしておつとめした
他家へ奉公に行つてゐて家へ歸して貰つた
家にゐて近所の飾りをみたり大念佛をみたりした
神様へ胡瓜で馬を作つて祭つた
園長先生からお盆の話を書いて寝た
隣家で将棋をやりお墓へ行き線香をあげた
お寺の和尚さんが来てお經をあげた
山へ行つたり野球をしたりした
無答

一〇

家で佛壇の掃除をした夜墓詣りをするので

弟が泣き出した僕はこわくないと云つてだ
ました

實家へ歸り活動をみて遊んだ
雨が降つたので家の中でピンポンをした

一一

佛教について

無答
死んだ人のことです
お釋迦様のことです
浄土宗、禪宗、キリスト、眞宗

一三
一一
一二

過去の最悪事

日蓮、佛様とは何か見えない神様を祭る
浄土宗、禪宗
お釋迦様、日蓮
曹洞宗、キリスト、臨濟宗、日蓮宗
ヤソ教、佛教、宗教
僕等の健康をお祈り下さる佛様です
お釋迦様、日蓮上人、弘法大師
祖先の靈を祭るもの
ヤソ教、日蓮宗、佛教
佛様は哀れな人を助ける
人間の靈を守つてゐてくれるもの
お釋迦様、弘法大師

一一
一一
一一
一一
一一
一一
一一
一一

人の物品を盗んだこと
奉公先を無断で飛び出したこと
父をだましたこと
家では人の物を盗み、學園へ来てからは逃走し
たこと
人に石を投げつけたこと
學園の西瓜を盗んだこと
家人や他人をごまかしたこと

一七
一一
一一
一一
一一
一一

- 貯金帳を盗みお祖母さんが死んだと云つてたま
して金を出した 一
- 嘘をついたこと 二
- 薄をかつばらつたこと 一
- 一寸したことに怒つたこと 一
- 人を困らし小さい者を虐めたこと 一
- 生物を殺したこと 一
- 怒つてお母さんに下駄を投げたこと 一
- 學園の前の山桃を盗んで喰べたこと 一
- 先生に無断で水泳に行つたこと 一
- 人を恨んだこと 一
- 足で硝子を破つたこと 二
- 無答 一
- 人に親切にしてやつたこと 五
- 冬の朝ラヂオ體操の時友人が冷いと云ふので往
復共に負つてやつたこと 一
- 人に道を教へてやつたこと 一
- 乞食に金をやつたこと 一
- 僕が家出をして人に恵んでやつたこと 一
- 學園を逃走しようとする友人をとめたこと 一
- 人が川に落ちたので救つてやつたこと 二
- 金を拾つて落主に届けたこと 一
- 迷子を救つてやつたこと 一
- 坂道で困つてゐる車を押してやつたこと 一
- お使に行つたこと 一
- 子守をしてやつたこと 一
- 野良犬の死體を埋めてやつたこと 一
- ブルの水をかへたこと 一
- 先生の赤ちやんが泣いたのであやしたこと 一
- 先生の子供が池へ落ちたので助けたこと 一
- お金を拾つて巡査に届けたこと 一
- 學校へ滿洲國の地圖を寄附したこと 一
- 本を返してやつたこと 一
- お母さんの病氣を看病したこと 一
- うちの子供を助けてやつたこと 一
- 友人の喧嘩を仲裁したこと 一
- 人の困つてゐるのをみて手傳をしたこと 三
- ルンペンにお金をやつたり眼の見えない人の手
を引いてやつたこと 一
- 家の手傳、子守、人に道を教へたこと 一
- お掃除、水汲をしたこと 一
- 人を可愛がつたこと 一

過去の最善事

- 無答 一
- なしと書いたもの 四

佛前への供物

- お盆に際して佛前への供物を、記憶によつて描かしめ
てみた。 九
- 茄子、胡瓜、南瓜、團子 九
- 佛壇、ソウメン二把、御飯、お茶、トウモロコ
シ、南瓜、團子、燭臺二本、線香、茄子、胡瓜 五
- 佛壇、茄子、胡瓜、團子、菓子、花 五
- 團子、牛、馬(共に野菜製) 三
- 茄子、胡瓜 三
- 茄子、胡瓜馬、團子、トマト、ソウメン 二
- 胡瓜、茄子、ソウメン、トマト、唐もろこし、
團子 一
- 胡瓜、茄子、南瓜、團子、ソウメン、トマト、
ほろつき、豆 一
- 佛壇に寫眞、ろうそく、團子、南瓜、胡瓜、茄
子、バナナ、線香、西瓜 二
- 豚、牛、南瓜、團子 二
- 佛壇、茄子、ソウメン 一
- 佛壇、線香、ろうそく、團子、とうらう二基、
木魚 一
- 茄子、胡瓜 一

盆の意味は約二十人が知つてゐた。昨年の記憶は遊んだ記憶が多い。佛の意義や宗旨についての知識は至つて貧しい。過去の最悪事については、矢張り窃盜が一番多い。他の答は僅少で、彼等とても盜事が悪いと感じてゐる。これに反して最善事は特に多いものはなく、種々雑多である。無答が四人、善いことを爲したことがないと云ひ切つた者が一人ある。これら二種の答で彼等の善惡に對する感情の一端を知ることが出来る。

個性調査

昨春以來、在園してゐた四十四名につき、個性調査表を作製して個別的に各寮の受持教諭に記入して貰つた。調査表は私の案出したものでかなり詳細な記入項目があつたが、未だ受持教師の方でも熟練せず、十分な結果は得られなかつた。

今後は私も調査表を改正し、教師の方でも観察に慣れ、ばもつと整つたものが出来るかと思ふ。こゝにはその一部を發表する。

家系及家庭状況

生 年

大正七年生 七
 大正八年生 三
 大正九年生 三
 大正十年生 六
 大正十一年生 六
 大正十二年生 七
 大正十三年生 三
 大正十四年生 五
 大正十五年生 一
 昭和二年生 二
 昭和三年生 一

本 籍 地

村 一五
 不明 一
 市 四
 町 四
 村 七
 不明 三

入園時同道者

父 九
 兄 一
 母 二
 警察官 四
 訓導 一
 方面委員 五
 その他の家族 四

入園前の住所

市 二二
 町 六

知人 二
 不明 一〇
 この中には數種で同道したものが四名ある。

養 育 者

實父 實母 七
 實母 繼母 〇
 實父のみ 九
 實母のみ 五
 養父 養母 二
 繼父 實母 一
 繼母のみ 一
 叔伯 父母 五
 姉 一
 會祖父 一
 ナシ 一
 不明 二

養育者の教育程度

父 二八
 不明 一六
 判明 三
 高等小學校卒業は 九
 尋常小學校卒業は 三
 尋常四年程度 一
 無教育に近い者 三
 不明 八
 判明 六
 尋常卒業程度 一
 無教育 五

養育者の職業

農業 一
 職工 八
 日雇 八
 五九

養育者の態度

不詳 二
 判明 二
 普通 三

商業 四
 土工 二
 新聞配達 一
 壽司屋 一
 運轉手 一
 無職 一
 僧侶 一
 不明 六

兒童出生時に於ける父母の年齢

父 判明 二五
 不明 一九
 二〇歳—二四歳
 二五—二九
 三〇—三四
 三五—三九
 四〇—四四
 四五—四九
 五〇以上
 母 判明 二三
 不明 二二
 一五歳—一九歳

二〇歳—二四歳 六〇
 二五—二九
 三〇—三四
 三五—三九
 四〇—四四
 四五—四九
 五〇以上
 同胞 一〇〇
 判明 三
 不明 四
 一人子 一
 第一子 一
 第二子 二
 第三子 四
 第四子 五
 第五子 二
 第六子 四

家系の遺傳的狀況

父 精神病 一

精神缺陷 一
 變質 一
 犯罪者 二
 酒亂 二
 酒客 二
 怠惰 二
 家出 二
 粗暴 二
 母 精神的缺陷 一
 粗暴 一
 同胞 精神的病 一
 犯罪者 一
 其他 二
 家出 一
 貧困 四
 中産 一
 家族の交情 十三名
 記載あるもの

家人の人格

記載ある者 二十四名
 異常なきもの
 病弱 一
 犯罪 一
 精神病 三
 放浪家出 三
 酒亂、酒客 四
 怠惰 一
 冷酷 一
 盜癖 一
 野卑 一
 盲人 一
 不和 一
 父家庭を省す 一
 冷酷 一
 嚴格 一
 孤獨 一
 養父母盲人 一
 普通 一
 親密 一
 温情 一

家人の轉職移住

記載あるもの	十九名
轉職	一回
失職	一回
移住	一回
同	二回
同	三回
住所不定	
轉職なきもの	
移住なきもの	

交通及遊び場所

記載あるもの	十三名
交通	便なるもの 不便なるもの
遊所	市街地 田舎 山野 驛所近 神社 遠方へ出て遊ぶ

入學年齢 學校状況

七歳入學	二六
八歳入學	二二
十歳入學	六一
不記載	
轉學	なし
なし	二四

不記載 轉學一回 二回 三回 小學校に於ける總成績

甲	なし
乙	二二
丙	二二

各科成績及好惡

修身	優	二八
讀方	二四	二〇
綴方	一八	二〇
算術	二六	二〇
地理	三五	〇〇
歴史	一五	〇〇
地理	一六	〇〇
圖畫	一七	〇〇

學校の好惡

十七名記載があつた。
學校を好む者
學校を嫌ふ者
教師への好惡

手工	一	一九
體操	三	一七
唱歌	六	一五
教師を好む者	一	二
教師を嫌ふ者	一	二
普通の者	一	二

血液検査

私は四十名についてその血清の梅毒反應の検査をした。その結果は次の如くである。
ワッセルマン氏反應

身體狀況

陰性	三八
陽性	二八

四十名の中二名に遺傳微毒を認めた。

血色

生き生きとして肉付がよい
蒼白
土色で艶がない
皮膚に弾力がない
元氣がない
皮膚がすきとほる

一七
一〇
三
五
三

病氣

病氣をしない
かゝり易い
すぐ治る
長くかゝる

三二
一一
一四
四

食事

大食
小食
好嫌がある
よく噛む
かまぬ
長喰ひ
早喰ひ

二四
二二
一五
一一
一一
一九
二二

睡眠

よく寝る
ぐつすり寝る
寝つきが悪い
時々眼がさめる
よく寝言を云ふ

三三
二〇
一〇
一八

疲労

疲れ易い
仲々疲れない
引續いて細かい仕事が出来る
日中眠いことがある
疲れてもすぐ治る

二〇
一八
八
八
六

風邪頭痛

頭痛がする
めつたに頭痛なし
風邪を引く
めつたに風邪をひかぬ
すぐ治る

一五
一七
一六
一八
三

腹痛其の他

お腹をこわすことがある
お腹をよくこわす

一一
〇

精神状況

こわしてもすぐ治る
仲々なほらぬ

一七
〇

言語

早口
冗長
迂遠
寡言
吃音
文法的誤り多し

二二
一七
一五
一一
三三
三三

動作

敏活
鈍重
普通
病的

二二
一五
四四
四

表情

誇大
稀薄
鈍麻

三三
一七
四

感覺

普通
過敏
鈍麻
普通

二二
一七
二七
〇五

愛情

普通
薄情
友情に厚し
人情もろし
動物愛護強し

一一
一七
二七
二
三六

自我

利己的
排他的

二七
一五

火事の夢	二	飛機にのる夢	一	金を貰った夢	一	友達の夢	一
希望		過		去		吳服屋	一
船員	一	獵師	一	軍人	一	染料屋	一
自動車修繕工	一	鑄物工	一	鍛冶屋	一	俳優	一
指用屋	一	鑄物工	一	鍛冶屋	一		
自轉車屋	一	藥屋	一	鍛冶屋	一		
獵師	一	機械商	一	藥屋	一		
商人	二	本屋	一	機械商	一		
船員	一	魚屋	二	本屋	一		
自動車修繕工	一	植木屋	一	魚屋	二		
漆器職	一	塗師	一	植木屋	一		
軍人	二	商人	一	塗師	一		
左官	一	商人	一	商人	一		
將	一	商人	一	商人	一		
玩具職	一	商人	一	商人	一		
機械工	一	商人	一	商人	一		

魚屋	一	指物屋	一	製箔業	一
漆器業	一	土工	一	靴屋	一
右利	二				
左利	二				
彷徨	二				
盜癖	二				
耽溺	二				
蒐集	五				
多辯	二				
狡滑	一				
鬪争を好む	一				
強情	一				
亂暴	一				
虚言	一				
子供っぽい	一				
社會的關心					
深	一				
淺	一				
普通	一				
殆んどなし	一				

性	格	下	三	八
内向的	二	内向的	一	三
外向的	一	外向的	一	三
病	四	病	一	九
根	氣	通	一	六
強	一	強	一	六
弱	一	弱	一	六
無	一	無	一	六
注	意	力	一	五
散漫	一	散漫	一	八
緻密	一	緻密	一	八
稍	一	稍	一	四
稍	一	稍	一	四
甚	一	甚	一	七
好	一	好	一	八
嫌	一	嫌	一	八

性	慾	一	六	六
早熟	一	早熟	一	六
晚發	一	晚發	一	六
普通	一	普通	一	六
病的	一	病的	一	六
夢	見	見	一	五
見るもの	一	見るもの	一	五
見ないもの	一	見ないもの	一	五
毎晩見るもの	一	毎晩見るもの	一	五
時々見るもの	一	時々見るもの	一	五
稀に見るもの	一	稀に見るもの	一	五
よく見る夢の種類	一	よく見る夢の種類	一	五
逃走の夢	一	逃走の夢	一	五
恐ろしい夢	一	恐ろしい夢	一	五
叱られた夢	一	叱られた夢	一	五
犬に追はれる夢	一	犬に追はれる夢	一	五

道德的感情

強 〇
弱 〇
普通 一九
劣等 一四

宗教的感情

強 〇
弱 〇
普通 二〇
劣等 一〇

種々な場合に於ける態度

叱られた場合

阿諛 一八
従順 一五
辯解 一一
不服反抗 一七
泣く 一六
内面的逃避 一八
他の權威に依頼 一五
欲する事を禁じられた場合
そのまゝにする 一一
盗む 一五
すきを見て目的を果す 二二
抗議する 三

あやまちを犯した場合

爆發する 一八
いら／＼する 一六
すぐ申立てる 一五
かくす 二六
恐怖する 一七
理窟をいふ 二七
他に罪を嫁する 二六
恐怖した場合
蒼ざめる 二二
萎縮する 二七
落つてゐる 七

病氣になつた場合

大袈裟に訴へる 一九
沈黙病臥 一五
平氣 三
元氣がない 五
寂しがる 七

友達から虐められた場合

知らぬ顔をする 四
阿諛する 一四
従順 二五
不服反抗 一四
泣く 三
逃避 三
内面的逃避 三
他の權威に依頼する 九

見慣れぬ所へ連れて行かれた場合

平氣 一七
騒ぐ 三
内面逃避 三
逃避 二
泣く 三
人を呼ぶ 四

褒められた場合

宇頂天になる 一七
冷静 一七
恐縮する 八

友達が悪いことをすゝめる場合

はねつける 三
躊躇する 七
従ふ 五
先生に云ひつける 四

好む物を與へられた場合

すぐとる 二六
きまり悪がる 一二
すねる 三
拒絶する 〇

物を欲しがる場合

無理にとらうとする 二二

冷静に要求する
あきらめる

悲しい場合

内面悲しむが表面はしやぐ
泣く
泣かないが悲しむ

交友関係

出しやばり
一人を樂む
のけ者にされる
大將になりたがる
自然大將になる
友達をほしがる
好かれる
いぢめる

學習の場合

勉強すき
勉強ざらひ
讀書すき
學校を休む
氣が散る

寢に就く場合

氣嫌よくねる
仲々寢ようとしな
眠れない
寢る時怒る
寂しがる
早く寢る

朝起きる場合

氣嫌よく起きる
朝寢をする
起されな
起きた時しやべる
すぐ果す

趣

映畫
見物その他の興業物
圖畫
文學

一〇六〇

二〇二六

二二五

二二四

一一一

一四一

一三三

一三六

二二三

二二三

二一三

二二七

二一〇

一六六

一六一

一〇五

二〇

二二

二二八

二二六

二二

一七

味

三四
二〇
一七
一一

七〇

質問すき

ちつとする

そつかしい

用意周到

逡巡する

遊戯の場合

活潑
ぐすぐすする
何でもしたがる
特殊のものだけしたがる
大將になる
勝ちたがる
まける
運動ざらひ

食事の場合

おいしさうに喰べる
いやさうに喰べる
しやべる
ちつとして喰べる
時々食事を止める
食事を残す

一六八

一五八

一二

一五

一六

一一

一三

一四

一八

一一

一七

一三

一六

一五

八九

一八

一六

一〇七

二二

二八

二二

二四

二五

一五

仕事をする時の場合

一生懸命
終りまでする
大まかにする
細かにする
途中でやめる
しやべる

(以上種々な場合は一人で數種を兼ねてゐる者があるので、統計はそれを含んでゐる。)

音樂
手工
盆裁
習字

七一

一一
一八
一五

裁縫手藝
散歩

一

動物飼育

七二

嗜好

好

好きなもの

飲食物食

果實、菓子類—パイナップル(2) 蜜柑(1)
西瓜(1) パナナ(1) 果物(3) 菓子(8)
饅頭(1) 豆(1)
その他—魚(1) 壽司(1) 天ぷら(1) 天
ん(1) うどん(1) そば(1) 餅(1)
運動娛樂
運動(1) 野球(3) ビンポン(1) 活動(3)
動物(1) 煙草(1) 讀書(2) 雜誌(3)
ナシ(0)

娛樂

玩具(2) 雜誌(2) 講談本(1) 本(1)
ナシ(11)

なりたいもの

機械工(1) 製函職(1) 漆器職(1) ベンキ職(1)
庭師(1) 鋳物工(1) 漁師(1) 自動車修繕工(1)
左官職(1) 職人(1) 職工(1) 玩具商(1) 植木
屋(1) 魚屋(1) 鍛冶屋(1) 指物屋(1) 藥
屋(1) 自轉車屋(1) 染物屋(1) 呉服屋(1)
商人(1) 軍人(3) 飛行士(1) 自動車運轉手(2)
書籍店員(1) 給仕(1) 船員(2) ナシ(6)

欲しいもの

器械類

寫真機(2) 自轉車(1) タンク(1) 器械
類(1)
財産衣食
金錢(2) 財産(1) 菓子(3) 着物(1)

結

語

私が半年餘の間に三方原學園へ通つて、知り得た貧しい記録は以上の如きものであつた。不備な點や遺憾な點の多いものであるが、求められるまゝに急ぎ纏めてみた。私は自分の微力を恥しいと思ふが、一方學園も幾多反省すべきものを帯つてゐると信ずる。私は教育家でもなく社會事業家でもない、私は鑑別醫として少年達の身心を精査すれば任務は終るのかも知れない。だが學園はもつと多くの方面の人々の協力を求めねばならぬ。教護院が懲罰教育の如き不合理な方針を捨てたのは遠い過去のことである。現代の學園はもつと時代に適合した新鮮なものでなければならぬ。私はこゝで感化事業の歴史や變遷を述べようとは思はない。私は自分の觀た學園の機構や少年達から考へついた二三を述べるに止めよう。

學園は先づ教護委員と協力して、少年の既往歴や發生の原因を探求しなければならぬ。私が調査した少年達の大部分は餘りにも杜撰な記録を持つて入園してゐる。鑑別醫の任務は既往歴を根據としなければ成立しない。過去は過去をして葬らしめよ、此少年を白紙のやうに考へて入園させ、教護しようといふ考が學園當局に見えるのは遺憾である。教護院は既に入園のやむなきに至つた少年の救済のみで満足してはいけない。一步進んで豫防教護にも努めねばならぬ。それには少年達が如何なる経過を辿つて來たかを、もつと徹底的に調査しなければならぬ。換言すれば、學園は地理的には遠く都會を離れて隔離されてゐるが、事實は都會の眞中にある様な氣持でゐねばならぬ。社會的にもつと目覺めなければならぬ。警察や學校や家庭から送られて來る子供を引受けてゐるのみではいけない、もつと社會事業の本旨に添ふやうな活潑なものであらしめたい。社會事業としての教護院は、不良少年を監禁するのではない、彼等を不良な環境から救つて教化してもう一度社會へ送り還すのである。これが精神病院と教護院の違ふ點である、精神病院とても治療して社會へ還すが理想であるが、社會保護のために監禁する患者も相當にある。學園は監禁所であつてはならない。逃走といふ言葉は、監

禁の子供である。もとよりあつた少年は浮浪生活の癖がついてゐるので、逃走し易い、だが隔離拘禁とか監禁といふ印象が未だ學園に残つてゐる。彼等が社會から逃げて學園へ飛び込んで來るのが理想である。私の経験では精神病院から患者の逃走を防ぐには、戸口の鍵をとり、待遇を改善するにある、家庭苦に喘ぐよりも病院の安住をよるこ患者は逃げない。病的少年は除外しても、普通の教護少年達が逃走したがるのは、學園でも反省しなければならぬ。ともかく少年の歴史を出来る限り詳細に調査して、参考にし、教化の基礎にしなければならぬ。過去を知らずに、現在の指導は出來ない、況んや將來への指導は成立しない。逃走少年についても身柄を引取に來いといふ警察の通知で、安心してはいけぬ。彼等の脱走の原因、その経過を詳細に調査し今後に備へなければならぬ。

私の上記の表にも明かなやうに、在園期間が餘りに長い、定年になつて初めて退園せしめる者の多いことは感心しない。それは社會へ還すに最も大きな障礙になる。退園少年の就職については、私も少しく経験を持つてゐるが、彼等は學園で職業的訓育がない上に年齢が進み過ぎてゐる爲に、幾多の失敗と苦難を味つてゐる。だが學園を實業學校化してはいけない。學園で職業教育を主とすることは反對である。學園の勞作は、あくまでも勞作であつて職業の前提であつてはならぬ。學園は實業學校と違つて、技術を教へる所ではなく、精神教育を主眼とすべき所である。だから勞働は人間の義務として、養育の一手段として課すべきである。生産を主としたら、技術を云々する時は、彼等は舵なしに海へ押し出されることになる。若し單なる勞作が彼等の興味をひくことが少いならば、學園の自活、自治を主眼として種目を擴張すべきである。學園の生活に必要なものを製作することを計劃するのはいい。彼等はそれによつて、人間がどうして生きるかを知るであらう。この主張は就職を益々困難ならしめるかに見える、だがこれが却つて就職を安易にする道である。如何に學園が努力しても、實業學校の如き設備をすることは出來ない、それよりも社會へ出て職業に精進出來る心構へを養ふがよい。今のまゝでは、技術もなし、心構もなし、氣力も乏しく、その上年をとつてゐる練習効果が少いので、就職は困難である。この勞働原理、勞作教育が徹底すれば、彼等をもつと早く社會へ戻つて新しい職業にもつけると思ふ。

學園の家族舎制度は私も賛成である。彼等の大部分は家庭に恵まれなかつたのだ、温い愛情が何よりも彼等の身にこたへる。もう一層、家族的にする必要がある、そして勞作によつて得た農産物は、その宿舍の食卓にのぼらせるやうにした。彼等はそれによつて、勞働の意義を最もよく理解するであらう。

學科の教育については、どの學校よりも個性教育に徹しなければならぬ。殊に精神薄弱兒が相當にゐるのだから、その方面の教育にも精通した教師が欲しい。一方優秀又は普通兒は、學園から普通小學校へ通はせてみるのもいいと思ふ。賞罰は感化教育では、極度に排斥されてゐる。然しこれはある程度に採用すべきではないかと思ふ。勞働はあくまで、その精神を主とすべきであるが、報酬の全くない仕事をなしつゞけ得る人は少い。普通人よりも一層物慾の強い少年達に、報酬のあてのない仕事をつゞけさせるよりも、何等かの方法で勞力に報いてやるのは、却つて効果があるのではないか。

身體的の缺陷についての調査は、これから着手する豫定であつたが、縣の都合で精神的の方面の調査の大體で中絶した。この方面にも改善すべき點があると思ふ。血液検査をして發見された二名の遺傳毒兒にも、治療してやりたい。明かな精神異常者はなかつたが、病的傾向者はかなり多い。又精神薄弱の高度のために時々無意味な興奮の烈しい者も數名あつた。これからは各方面と連絡をとつて、着々教護と救済に努力されんことを希つてゐる。醫者としての私の希望を云へば、看護婦を置くか、媒母にもう少し醫學的知識を與へ、衛生設備をよくしたい。又家庭的の事のみでなく、女の教師が教壇に立つたり、作業を指導することも望ましい。殊に精神薄弱兒の教育には、女の教師が適任でないかと思ふ。

園外委託も實現したい。なるべく早く少年を社會へ還す手段として、先づ學園で基礎的な教化を行つて、軌道にのつた者は連絡ある職業を持つ家庭へ委託するがよい。これは社會の理解を得ることが困難かも知れないが、その効果は學園へ長期に收容するよりも、遙かに高いと思ふ。要するに學園はその社會的認識を昂めて、社會からも理解されて、もつと社會との連絡を密にしなければならない。繰返すが、學園は懲罰所や監禁所ではない、境遇が悪いために悪化した少年や素質の悪い少年を、一時預つてよくして社會へ還す所である。その任務は重大で、仕事は無數にある。

静岡縣の社會課では、他府縣に率先して多數の教護委員を任命し、相談所の開設を促し、學園の改善にも大いに努めつゝあるのは欣びである。制度と設備はおよそ整つて來た、これからは内容の充實に努めねばならない。私の拙い報告書が、この大業の發展に少しでも役に立てば幸である。

(昭和十一年三月十二日夜)

（以下は重複撮影による文字がほとんど読めず、非常に淡くぼやけた文章が並んでいる）

昭和十一年三月廿五日印刷
昭和十一年三月三十日發行
(非賣品)

静岡縣學務部社會課

静岡市馬淵町二丁目六拾番地

印刷者 深尾新松

静岡市馬淵町二丁目六拾番地

印刷所 深尾印刷所

電話一七九五番

静岡縣の社會課では、他府縣に率先して多數の教護委員を任命し、相談所の開設を促し、學園の改善にも大いに努めつゝあるのは欣びである。制度と設備はおよそ整つて來た、これからは内容の充實に努めねばならない。私の拙い報告書が、この大業の發展に少しでも役に立てば幸である。

七六

(昭和十一年三月十二日夜)

昭和十一年三月廿五日印刷
昭和十一年三月三十日發行
(非賣品)

静岡縣學務部社會課

印刷者 静岡市馬淵町二丁目六拾番地
深尾新松

印刷所 静岡市馬淵町二丁目六拾番地
深尾印刷所
電話一七九五番

298
45

終

